



両備グループ サステナビリティレポート

RYOBISION

2025

RYOBI GROUP

発行
両備ホールディングス株式会社



RYOBI GROUP WEB



この冊子は石灰石から生まれた新素材LIMEX でつくられており、水資源の利用を抑えています



1冊あたり約**12L** 削減

LIMEXを使用することで、従来の印刷物と比較して、
製造時の水使用量を（約97.7%）削減しています。
※一般的なコート紙（90kg）製冊子と比較



はじめに

両備グループは、お客様と地域に支えていただき、2025年で創立115年目を迎えました。

次の100年もお客様の生活、地域のお役に立てる企業を目指して、環境や経済に配慮した活動を行なうことで

社会全体を長期的に持続させていこうという“サステナビリティ”の考え方により、

「次代とつながり次代を創る事業」を展開しています。

この「RYOBISION 2025」では、両備グループの「8つの新・3カ年経営ミッション」に照らして、

両備グループのサステナビリティの取り組みをご紹介します。

CONTENTS

02 両備グループ経営理念・経営方針・グループ全体概要

03 両備グループのあゆみ

04 115周年の感謝－松田CSOメッセージ・Rちゃん紹介

05 8つの新・3カ年経営ミッション

06 RYOBITREE

07 with Customers

13 with Employees

17 with Society

25 with Next Generation

経営理念

忠恕

真心からの思いやり

経営方針

一、社会正義

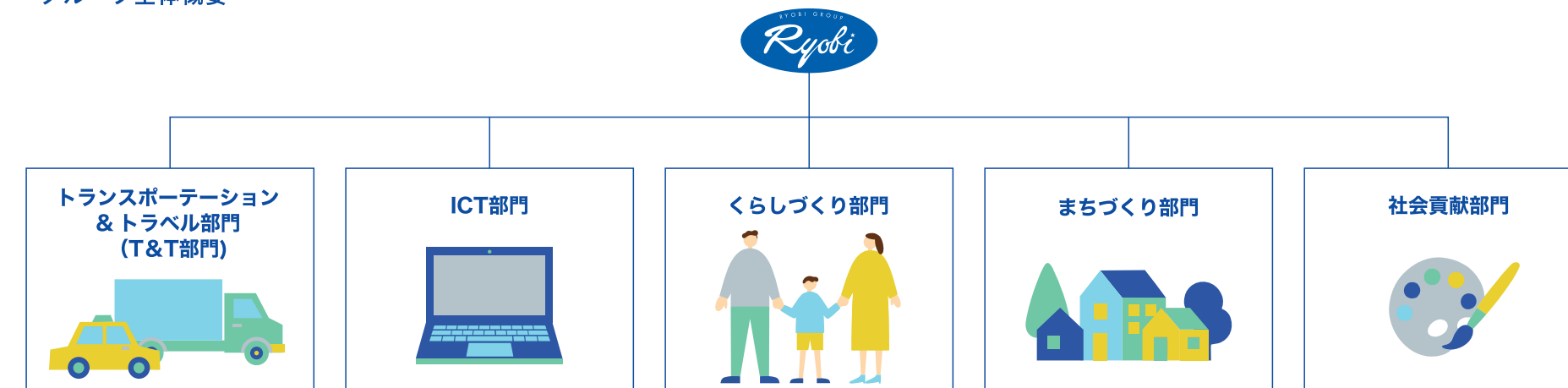
一、お客様第一

一、社員の幸せ

忠恕(ちゅうじょ)は、100有余年の両備グループの歴史の中で脈々と受け継がれてきた創業者の思いです。真心からの思いやりを意味し、すべての社員が仕事をする上での指針としています。そしてこの忠恕を、社会、お客様、社員への

3方向に展開したもの、つまり、社会への思いやりとして「社会正義」、お客様への思いやりとして「お客様第一」、社員への思いやりとして「社員の幸せ」、を経営方針としています。

グループ全体概要



社数

約50社

従業員数

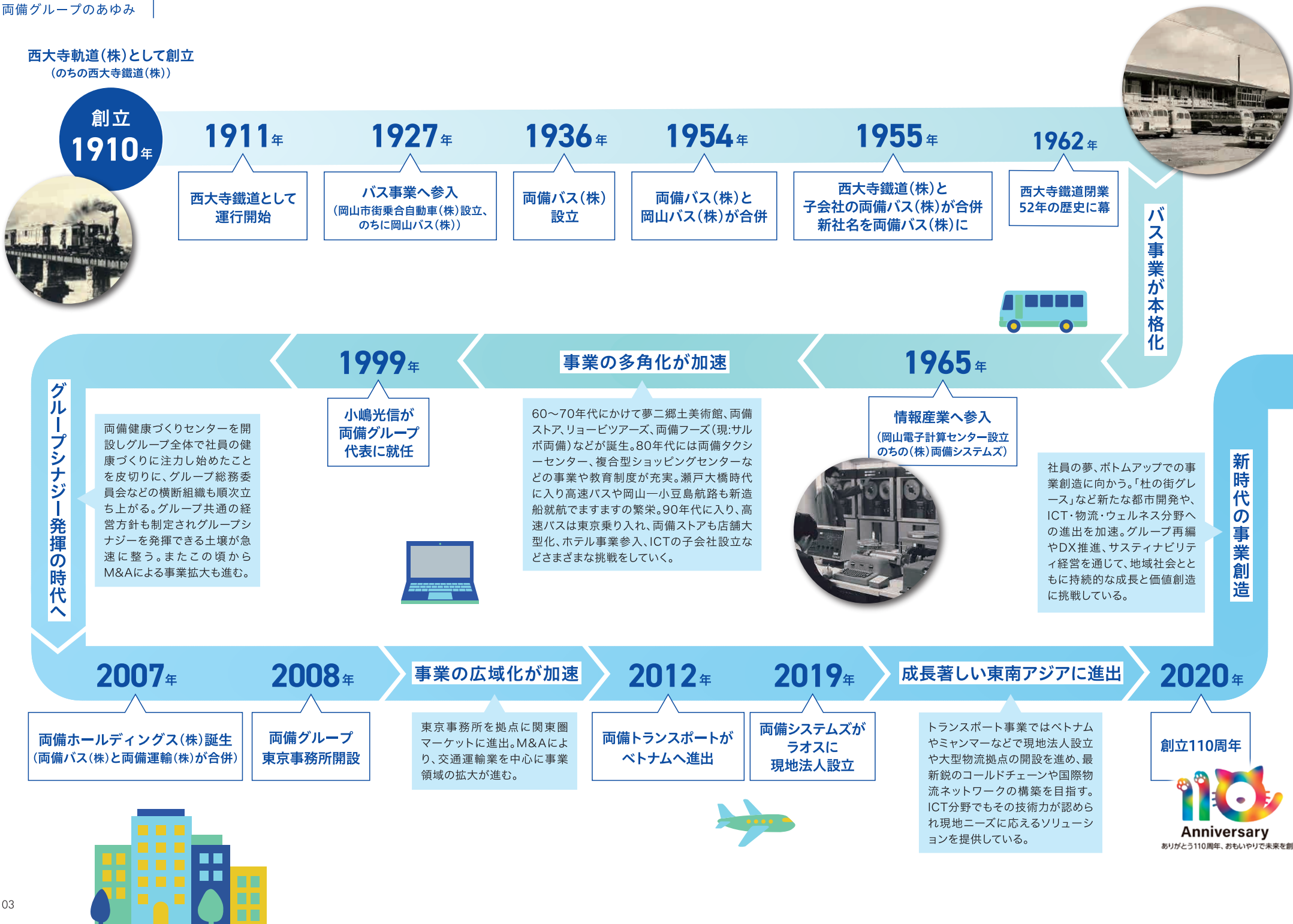
約9,000人

売上高

1,616億700万円(2025年3月期)

経常利益

102億8,900万円(2025年3月期)



2025年

想像もつかない世界へ

両備グループは1910年に岡山県岡山市で西大寺鐵道としてその歩みを始め、2025年に創立115年を迎えることができました。わずか11.5kmの小さな鉄道事業から出発した両備グループは、現在では約50社、約9,000名の仲間とともに、多角的事業を展開する企業グループへと成長いたしました。経営理念「忠恕(真心からの思いやり)」を原点に、交通や旅行を彩る「トランスポーション&トラベル部門」、新技術で未来を創る「ICT部門」、生活基盤を支える「くらしづくり部門」、都市再生を目指す「まちづくり部門」の4つの事業セグメントと、美術館運営や地域公共交通の研究所運営などを行なう「社会貢献部門」で事業展開しています。両備グループがこれまで成長できたのは、お客様や地域の皆様から信頼していただいたこと、そして諸先輩方の志、仲間一人ひとりの努力のおかげであると考えています。115周年という節目を迎えた今、私たちとお客様をつなぐ「想像もつかない世界へ」というタグラインを決めました。私は、社員一人ひとりが

夢を持つことの大切さを心から感じています。夢は個人の成長や企業の未来を描く原動力です。しかし、夢は一人だけの力で実現するものではありません。仲間とその夢を語り、共感を生むことで、チームとしての力となります。そして、仲間と共に協力し合い、挑戦を続けた先には、「想像もつかない未来」が開かれていると信じています。次の100年も地域社会と共に成長し、持続可能な未来を創造するために歩みを続けてまいります。これからもお客様・地域の皆様・仲間たちと共に創しながら、地元岡山はもちろん、日本全国、さらには世界へと、お客様のさまざまな課題解決のために全力を尽くしてまいります。

両備グループ CSO
(Chief Strategy Officer)

松田 敏之
Toshiyuki Matsuda



はじめまして Rちゃん です



キャラクター「R(アール)ちゃん」。

両備グループ創立115周年を機に誕生した、「想像もつかない世界へ」の道先案内人です。この先の両備グループの未来を社員と一緒に切り開いていきます。

好奇心旺盛な努力家で常にプラス思考。そんなRちゃんが住む世界は両備グループの多彩な業務内容から生まれるさまざまな可能性に満ちあふれた世界。触れるものによって色を変える姿は多様性の象徴です。両備グループはRちゃんとともに進化していきます。

Rちゃん(アールちゃん)

性格: 好奇心旺盛、ひたすら前向き、プラス思考

特技: 基本的に全力疾走、体の色を変えることができる

好きなこと: 冒険



8つの新・3カ年経営ミッション

- 1 日本一の安全・安心と内外へのホスピタリティの追求
- 2 人軸経営の徹底・社員満足の追求と多様な人財の育成と活用
- 3 グループシナジーと生産性向上
- 4 地方創生とサステナブルな社会の実現への貢献
- 5 顧客中心の価値創造
- 6 デジタル人財の育成と次世代リーダーシップの強化
- 7 国内外市場での成長戦略と地域密着の両立
- 8 次代に合わせたビジネスモデルの変革

RYOBITREE

ミッション同士のつながり



地域を想い、地域から国内外へ
社会全体をより良くする

with Society

- 4 地方創生とサステナブルな社会の実現への貢献
- 7 国内外市場での成長戦略と地域密着の両立

お客様に両備ならではの
安心感と感動をお届けする

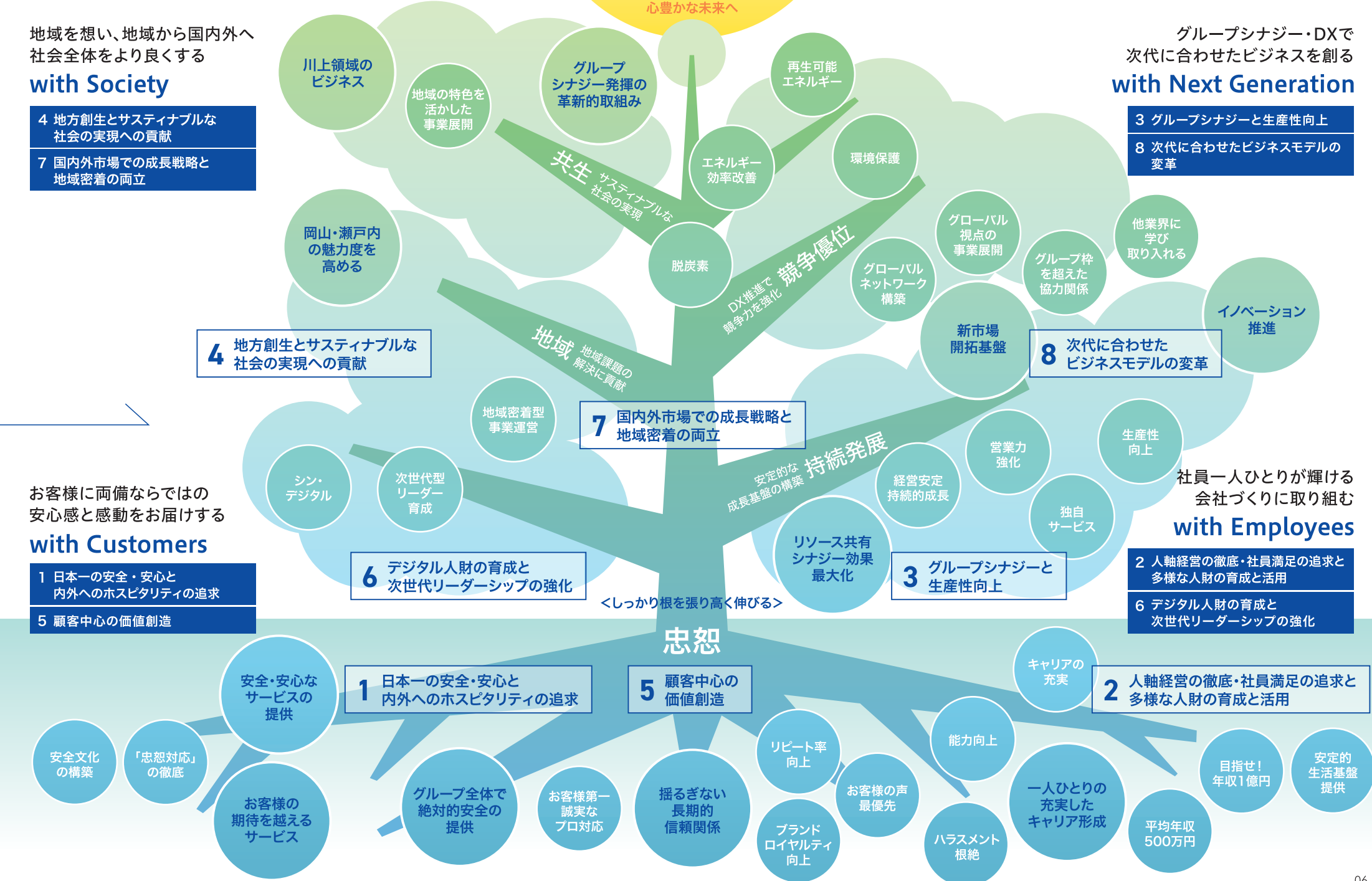
with Customers

- 1 日本一の安全・安心と内外へのホスピタリティの追求
- 5 顧客中心の価値創造

Think Life and the Earth, Think Setouchi

地域とともに成長し、想像もつかないより良い未来を創り出す

心豊かな未来へ



「ご安全に!」この一言が共通の合言葉である両備グループは、お客様に絶対的な安全性を提供することを最優先に考えています。交通運輸部門の安全維持はもちろん、すべてのサービスや商品においても同様です。また、お客様一人ひとりの声を大切に、その期待を超えるホスピタリティを追求することで、両備グループならではの安心感と感動をお届けすることをお約束します。

Mission

1 日本一の安全・安心と内外へのホスピタリティの追求

5 顧客中心の価値創造

グループ全体での安全・安心

| グループ横断 |

両備グループCS委員会

両備グループは、公共交通や店舗、飲食、ガソリンスタンドなど多くの接客事業を展開しており、お客様満足のために高いホスピタリティを重視しています。その一環として、CS委員会を設けてお客様からの声（お褒め・お叱り）を毎月共有し、特にお叱りについては深刻度に応じて4段階に分類し、改善策を協議しています。

| グループ横断 |

両備グループSSP-UP技能コンテスト

両備グループでは、1983年から毎年、バス、トラック、フォークリフト、タクシー、鉄軌道、フェリー、整備、事務の8部門で技能・技術・サービスを競う「SSP-UP技能コンテスト」を開催し、安全意識と技術力の向上を図っています。SSP-UPとは、安全(Safety・Security)、サービス(Service)、生産性(Productivity)の向上を目指す全社的な取り組みです。この全体コンテストに加え、グループ各社でも独自の安全強化活動を展開。両備トランスポートカンパニーでは支店ごとの安全大会、両備テクノモビリティカンパニーでは整備技術コンテストを通じて現場力を強化。ICT部門では、過去の障害事例の分析と再発防止策の共有を通じて、品質意識と技術力の向上に取り組んでいます。



交通運輸事業の安全・安心

| T&T部門 |

両備グループ交通運輸事業安全マネジメント

両備グループ安全マネジメント委員会を中心に、労使協調のもと、より現場に密着した効果的な活動を展開し、目標である「日本一安全な運輸企業」を目指しています。

両備グループ安全宣言

社会正義の経営方針に則り、交通運輸各社は、「運輸安全マネジメント」に基づき、「安全」を最優先とし、「日本一安全な運輸企業」を目指して頑張ることを宣言します。

両備グループ安全方針

1. 安全運転(運航)を第一とし、法令遵守し、基本に忠実に日々業務を遂行すること。
2. 車両(船舶)の整備を的確に行ない、日常点検を厳正に行なうこと。
3. 点呼において、日々安全への啓蒙、関心を高めること。
4. 教育を通じて安全意識を常に涵養すること。
5. 万が一重大事故の場合、人命尊重を第一に対処し、速やかに上司、関係機関への連絡をとること。

| T&T部門 (バス・鉄軌道事業各社) |

ユニット横ぐしの安全・CS徹底体制

バス・鉄軌道ユニットでは、2025年4月よりユニット横ぐしの「安全・CS推進室」を設置し、以下の3つに取り組んでいます。

- ①育成プログラムの共通化やIT・デジタル化などを推進
- ②乗務担当社員の安全・CSのレベルアップ
- ③運行管理者の育成

両備グループでは、安全最優先の方針を徹底するため、乗務担当社員だけでなく指導者の教育レベルも向上させ、グループ全体で統一した教育基準の整備に取り組んでいます。

| グループ横断 |

法務部によるグループ全従業員向けの啓発活動

両備グループでは、法令や社会情勢の変化に対応するため、法務リスクマネジメント部が中心となって情報共有や研修を行っています。従業員が安心して働ける環境づくりにも力を入れ、法令遵守を超えた「社会正義」の実現を目指してコンプライアンス体制の強化に取り組んでいます。

| T&T部門 |

事故防止のための安全な車両導入

両備グループの交通運輸各社では、定期的に安全性能の高い新型の車両や設備への代替を行なっています。

高速バス

安全・安心のために衝突被害軽減ブレーキなど安全装備がついた車両を2030年までに100%導入予定

Rちゃんバス(路線バス)

AI機能搭載車内ミラーや衝撃吸収収材搭載

スカニア2階建て貸切バス

- ・車間距離保持機能付クルーズコントロール
- ・衝突被害軽減ブレーキ
- ・車線逸脱警報装置
- ・電子制御式安定走行プログラム
- ・リターダー

スカニアトラック

- ・車間距離保持機能付クルーズコントロール
- ・衝突被害軽減ブレーキ
- ・車線逸脱警報装置
- ・調節式エアースペンションシート
- ・リターダー

貸切バス

- ・巻き込み事故警報装置
- ・ドライバー異常時検知システム



| T&T部門 |

クラウド型ドライブレコーダー導入

両備グループのバス・タクシー会社はクラウド型ドライブレコーダーを導入し、運転状況をリアルタイムで把握。事故対応や健康管理に活用し、安全運転スコアによる教育も推進。DXを通じて安全・安心な輸送と業務効率化を目指しています。

| T&T部門 (バス・鉄軌道事業各社) |

整備履歴のデジタル管理

両備グループのバス会社では、安全・安心な運行のために整備履歴をデジタル管理し、傾向分析によって異常の兆候を早期に把握。計画的な点検・整備で突発的な故障を防ぎ、日々整備管理の高度化に取り組んでいます。

| T&T部門 (両備タクシーセンター) |

電話応対向上&配車ミス防止チームの活動

両備タクシーセンターでは、毎日約4,200件もの配車依頼があり、電話応対と配車ミス防止のため専門チームを設立。応対力向上を通じてミス削減を図り、個別支援や面談、図解による情報共有で安心・正確なサービス提供を目指しています。

| T&T部門 (両備トランスポート・両備テクノモビリティ) |

新しい技術を導入した安全教育

両備グループはVR技術を活用した安全教育を推進。両備トランスポートカンパニーはKYT(危険予知トレーニング訓練)で実践的な安全意識を強化し、両備テクノモビリティカンパニーは整備士向けにVR研修や3Dマニュアル導入を計画。技術革新で教育と技能向上を目指しています。

セキュリティ強化

| グループ横断 |

セキュリティ・品質・マネジメント体制の強化

両備グループはサイバー攻撃対策として「情報セキュリティ委員会」を設置し、グループ全体で問題共有と対策を協議しています。

両備システムズでは目的別の専門組織を運営し、情報資産保護に取り組んでいます。

- 全社的なセキュリティ・品質強化を目的に、役員室直轄のガバナンス統括室内に「セキュリティガバナンス推進室」と「品質マネジメント室」を設置
- サイバー攻撃への迅速な対応を目的に、「Ryobi-Sirt(セキュリティインシデント対応チーム)」を設置し、実践的な疑似訓練を通じて対応フローの検証と改善を実施
- 常時監視による早期検知と迅速な対応を目的に、特定のお客様向けに24時間365日のセキュリティ・オペレーション・センターを開設(2024年11月より)

| ICT部門 (両備システムズ) |

ISMAP取得

クラウドサービスの利用拡大に伴い、両備システムズは高水準のセキュリティを証明するため、政府調達基準の「ISMAP」認証取得を推進。同等のセキュリティで自治体や民間にも安心してサービスを提供できる体制を整えています。

※ISMAP(イスマップ)とは、日本政府が利用するクラウドサービスが、国のセキュリティ基準を満たしているかを評価し、登録する制度です。政府が安心してクラウドを導入できるようにし、信頼性の高いサービス選定を支援します。登録サービスは政府調達の基本となり、民間でも選定の参考になります。

| ICT部門 (両備システムズ) |

多要素認証「ARCACLAVIS Ways(アルカクラヴィス ウェイズ)」

近年、医療機関を狙ったサイバー攻撃が増加傾向にあります。医療分野の情報セキュリティ強化として、システムを利用する端末の本人認証ソリューション「ARCACLAVIS シリーズ」を提供しています。本ソリューションは、小規模な診療所や薬局などでも導入しやすく、高い安全性を兼ね備え、安心して医療を受けられる環境づくりに貢献します。

ARCACLAVIS Ways



01 安全・安心・セキュリティの徹底

食の安全・安心

｜くらしづくり部門（サルボ両備・両備ストア）｜

QSCHの確立（クオリティ・サービス・クリーンリネス・ホスピタリティ）

両備グループで食に関わる事業を行なうサルボ両備と両備ストアカンパニーは共同でホスピタリティ研修を実施し、満足度の高い店舗づくりを推進。品質・サービス・清潔さ・おもてなしを重視し、専門清掃や接客研修、店舗ごとの接客ルールで快適な環境と心地よい時間を提供しています。さらに、サルボ両備では、2025年より、店舗スタッフ向けに「スターパッチ制度」を導入予定。一人ひとりの接客スキル見える化と評価を通じて、スタッフの成長とお客様満足度の向上を目指します。

｜まちづくり部門（両備アグリウェルネス）｜

水耕栽培野菜「Ortolano（オルトラノ）」

両備の植物工場でLEDを使って生産される「Ortolano」は、農薬不使用で衛生管理された室内育成の野菜ブランド。洗わずに食べられ、味が濃く個性豊かで、季節を問わず楽しめる贅沢なサラダは進物用にも人気。航空機ファーストクラスの機内食にも採用されています。さらに、この野菜は、障がいのある方々がそれぞれの特性に応じた分業で関わる農福連携の取り組みから生まれており、社会にやさしく、持続可能な価値を提供しています。



｜くらしづくり部門（両備エネシス）｜

島根のおいしい天然水「enamis（エナミス）」

島根県金城町の地下水を使用した「enamis」は、加熱殺菌なしの希少な天然水で、赤ちゃんにも安心なミネラル豊富なアルカリイオン水。美容や健康にも良く、両備エネシスが宅配ウォーターサーバーやペットボトルで販売しています。



地域の暮らしの安全・安心

｜くらしづくり部門（岡山三菱ふそう自動車販売）｜

地域の交通安全への取り組み

岡山三菱ふそう自動車販売は、安全意識向上のため交通ルール啓発ステッカーや蛍光バンドを配布し、地域と連携した事故防止活動を展開。春の交通安全コンテストでは4年連続最優秀賞を受賞し、安全・安心な社会づくりに貢献しています。



｜くらしづくり部門（両備テクノモビリティー）｜

信頼と品質の整備体制構築

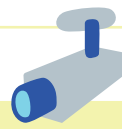
両備テクノモビリティーカンパニーでは、安全・安心な整備のため作業工程の見える化とクロスチェックを実施。引き渡し時の対面対応で責任感を育み、一日3回の進捗報告ミーティングで情報共有とチームの連携強化を図っています。



｜くらしづくり部門（両備ヘルシーケア）｜

貴重品保管庫の設置

両備ヘルシーケアの住宅型有料老人ホームでは、貴重品の管理がご自身では難しくなってきたご入居者のために、施設共用部に「貴重品保管スペース」を設置しました。施錠され、防犯カメラが取り付けられたスペースで管理することで、貴重品を安全・安心に保管いただくことができます。



｜まちづくり部門（両備ウェルネス）｜

衛生管理を追求した清掃サービスの提供

両備ウェルネスの清掃サービスは、高性能器具と人体に無害な洗剤を用い、手術室レベルの衛生管理を実施。紫外線ライトやATP検査で清掃後の衛生状態を数値化し、月1回の抜き打ち検査で「まな板以上」の基準を設けて雑菌残留度を測定。安全・安心な環境づくりに努めています。



建築の安全・安心

｜まちづくり部門（両備ホームズ）｜

地震に強い安心の住まい

両備ホームズでは、最新の耐震技術「JSPAC耐震工法」を活用し、地震に強い安心の住まいを提供しています。鋼板と繊維シートを組み合わせた独自の柱巻き工法により、安全性と耐久性を高めるとともに、施工中も居住可能で意匠への影響も少ないのが特長です。これにより、地震による建物の損傷を抑え、大切な住まいや財産を長期的に守ることで、安心して暮らせる快適な住環境を実現します。



｜くらしづくり部門（礎コラム）｜

「ゼロ災害」モデルの徹底

礎コラムでは、「ゼロ災害」を目指し、安全委員会の設置や定期的な安全パトロール、品質検査の徹底を実施。改善点は即時反映し、全体で安全意識を高めています。社員一人ひとりが「安全はすべてに優先する」意識を持ち、継続的に安全管理を推進しています。



｜くらしづくり部門（礎コラム）｜

BIMの技術取得によるリスク可視化

礎コラムでは、建築の安全性と品質向上のため、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）技術の習得を推進。設計段階からリスクを可視化できる「AutoDesk Revit」という専門ソフトを導入し、3Dモデルで情報を一元管理。より高品質な建築提供に向けた体制強化を進めています。

02 「もしものとき」のまちづくり

もしものための取り組み

｜グループ横断｜

大規模災害時の自治体との連携

両備グループでは、行政との協力と自主的な取り組みの両面から、災害時における地域と人々の安全を守る体制を構築しています。まず、岡山市と締結した「災害発生時における協力協定」では、バス・タクシー・フェリー・石油・介護要員など多岐にわたる事業を一体として活用し、災害対応を支える枠組みを整えています。このように民間企業グループ全体が包括的に参画する協定は全国的にも極めて珍しいものです。

協力内容の一例

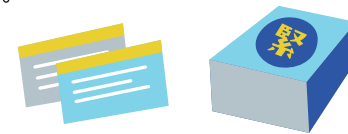
- バス・タクシー・フェリーを利用した避難所等への被災者・支援者の搬送
- フェリーを利用した支援物資等の搬送（カウンターパートナー制を採用している高松市が被災した場合）
- 両備グループ運営のサービスステーションを活用した一時避難場所の提供および燃料供給
- 大規模災害時における避難所での人的支援（ヘルパー派遣）および事業所の避難所指定

加えて、自治体連携だけにとどまらず、両備バスカンパニーでは独自に津波や震災を想定した実地訓練を定期的実施し、お客様と社員の命を守る体制を強化しています。こうした自主訓練は、協定に基づく支援体制を補完し、日常からの備えを通じて災害時の即応性を高める取り組みです。

｜T&T部門（フェリー事業各社）｜

災害時の安全確保に「マル緊BOX」活用

フェリー各社では、万が一の災害時や緊急事態に備え、お客様と従業員の安全を守る初動対応セット「マル緊BOX」を各拠点に配置しています。このBOXには、緊急時の行動を時系列に沿って分かりやすく示したカード類が収められており、「トイレに閉じ込められている方がいないかの確認」といった具体的なチェック項目を順を追って確認できるようになっています。混乱の中でも、誰もが迷わず動けるよう設計されており、いざという時にも迅速かつ確実な対応を可能にします。



｜くらしづくり部門（両備エネシス）｜

地域の防災拠点としてのサービスステーション活用

両備エネシスは、サービスステーション23店舗に緊急発電機を配備し、停電時も約7時間連続して給油機を稼働させ、緊急車両や一般車両へ燃料を途切れさせず提供が可能です。また、サービスステーションは不燃構造のため、延焼のリスクが低く安全な一時避難場所としても活用可能です。災害時も速やかに営業を再開し地域復興に貢献いたします。また、地域の防災意識の向上を目的に、各サービスステーションに防災コーナーを設置し、飲料水や非常食、防災用品を展示して備蓄の重要性を啓発しています。2025年5月現在、防災士資格を有する社員は56名にのびります。各拠点に防災士を1名以上配置し、地域との連携による支援活動を円滑に行なえるよう定期的に防災訓練を実施しています。



｜くらしづくり部門（両備テクノモビリティー）｜

防災トレーラーの開発・販売推進

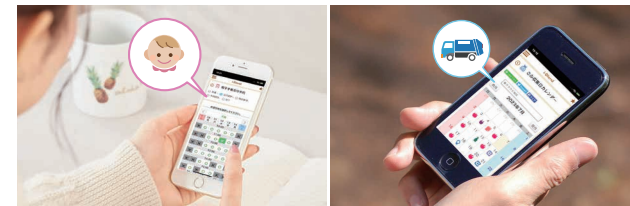
両備テクノモビリティーカンパニーでは、災害時に迅速な支援を可能にする防災トレーラーの企画・展開に取り組んでいます。すでに、断水時などに対応できる環境配慮型トイレを中心に、給水タンクや発電機、冷暖房設備、テーブル・イスを備えた移動型トレーラーとして防災用途での納入実績があり、今後は簡易住居スペースなどの機能拡張も視野に入れて検討を進めています。ニーズに応じた柔軟な構成により、非常時の生活基盤支援に貢献することを目指しています。

｜ICT部門（両備システムズ）｜

災害時の情報共有に「i-Blend（アイブレンド）」

両備システムズは、住民生活総合支援アプリ「i-Blend」を提供しています。住民への新たな広報手段として従来のホームページなどのプル型の情報発信ではなく、プッシュ型の積極的な情報配信を行なうアプリサービスです。タイムリーに災害時の情報共有などが可能になります。

iB i-Blend



｜ICT部門（両備システムズ）｜

情報の安全を守るデータセンター「Ryobi-IDC」

自然災害が少なく交通の便にも優れた立地条件の良い岡山に、災害に強く絶大な信頼を誇るデータセンターを設置。最新のファシリティ、厳重なセキュリティ、安定した電力供給、フレキシブルなサーバールームを特長としています。多様なネットワークとハイブリッド構成が可能な各種クラウドサービスも取り揃えています。



03 使いたくなる公共交通

ハードの進化

| T&T部門（バス事業各社） |

すべてのお客様に優しい車両への切り替え

両備グループでは、ノンステップや車いす対応バスを導入し、誰もが利用しやすい環境整備を進めています。空港リムジンバスでは、2025年3月にはエレベータ付きバスを導入し、車いすの方も安心して乗降できるよう改善しました。



| T&T部門（フェリー事業各社） |

旅客ターミナルのバリア解消による旅行者への安心提供

フェリー各港施設において、段差の解消や自動扉の採用等のバリアフリー化や、サインやインフォメーションの多言語対応による外国人利用客の利便性向上などを進めており、どなたでも利用しやすい施設づくりを目指しています。



ソフトの進化

| T&T部門（バス・鉄軌道事業各社）・ICT部門（両備システムズ） |

バスロケサービス「Bus-Vision（バスビジョン）」の改良

「Bus-Vision」は、スマホやPCでバスや路面電車の位置や到着時刻を簡単に確認できるバスロケーションサービスです。改良により遅延状況などの詳細情報提供が可能になり、スムーズな利用を支援しています。今後もさらなるサービス向上を目指します。



| T&T部門（バス事業各社） |

路線バス・高速バスの多言語対応

両備グループでは、訪日外国人や地域在住の外国人が安心して利用できるよう、路線バスや高速バスの多言語対応を強化しています。英語の車内アナウンスや表示、タブレット端末での多言語案内、バスロケーションシステムの多言語化により、移動時の不安軽減を図っています。



| T&T部門（両備スカイサービス） |

出発便におけるお見送りの実施

両備スカイサービスカンパニーでは、お客様に思い出に残る体験を提供するため、横断幕を掲げた季節感や特別感のあるお見送りを実施しています。5月にはこいのぼりを掲げるなど工夫し、喜ぶお客様の姿が社員のモチベーション向上にも繋がっています。

| T&T部門（岡山交通） |

ユニバーサルマナーの体得

岡山交通では、すべてのお客様が安心して利用できるよう、乗務担当社員に対して「ユニバーサルマナー検定3級」の受講を推進しています。高齢者や障がいのある方への理解を深め、声かけや車いす介助など実践的スキルを習得し、正しい知識と思いやりのある対応で移動支援社会の実現を目指しています。



| T&T部門（神戸ベイクルーズ） |

QRコード乗船

神戸ベイクルーズでは、ゴールデンウィークなどの混雑する時期に、試験的にQRコードでの乗船受付を行なっています。今後は体制を整え、通常時にもこの仕組みを導入することで、お客様がスムーズに乗船できるようにし、運航管理の効率も高めていく予定です。



| T&T部門（岡山交通・岡山両備タクシー） |

QR注文「ココベル」

岡山交通・岡山両備タクシーでは、2025年2月よりQRコード注文サービス「ココベル」を開始し、すべてのお客様にとって、スムーズにタクシーが利用できる環境の整備を進めています。「ココベル」は、アプリ登録不要で、岡山市内・倉敷市内の観光地やホテル、飲食店などに設置されたQRコードをスマートフォンで読み取るだけで、タクシーを呼べるサービスです。操作は簡単かつ日本語・英語に対応しており、初めての方や観光客、海外からのお客様にも安心してご利用いただけます。移動の利便性を高めるだけでなく、誰もがストレスなく使える仕組みで、お客様へのホスピタリティを体現しています。



| T&T部門（両備タクシーセンター） |

自社アプリ「TAXI.come（タクシードットカム）」

タクシー配車アプリ「TAXI.come」は、2022年の岡山・倉敷・津山での開始以来、2025年9月に累計95,000を超えるダウンロードを達成。事前予約やキャッシュレス決済など機能を充実させ、使いやすさを向上させています。

アプリでタクシーをもっと便利に

TAXI.come
タクシードットカム

対象エリア
岡山・倉敷
津山

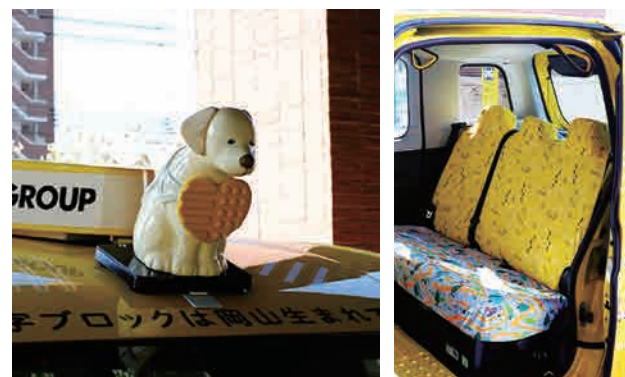


| T&T部門（岡山交通） |

点字ブロックタクシー

岡山交通では、瀬戸内の魅力発信と地域貢献を目的に「YELLOW SPECIALITY」シリーズ*を展開しています。第5弾は岡山発祥の「点字ブロック」に着目し、「点字ブロックタクシー」を製作。車体に「点字ブロックは岡山生まれです」というメッセージと点字ブロックのイラストを施し、座席足元には実物を設置。歴史を紹介するパンフレットを車内に備え付け、点字ブロックの重要性を広める啓発活動を行なっています。選任ドライバーはユニバーサルマナー検定3級を取得し、高齢者や障がいのある方への支援方法の基礎を習得。すべてのお客様が安心して移動できる環境を整え、誰もが暮らしやすいまちづくりに貢献しています。

※「YELLOW SPECIALITY」シリーズについての説明は24ページに掲載しています。



| T&T部門（両備タクシーセンター） |

健康や豊かな暮らしをサポートするタクシーサービス

両備タクシーセンターでは、地域住民の健康と暮らしを支える多様なサービスを展開しています。妊婦向けの「このとりタクシー」、お子様専用の「おこさまタクシー」、利用状況を家族に知らせる「みまもり通知タクシー」、お買物代行やお墓参り・お墓掃除代行など、多彩なタクシーサービスで日々の安心をサポートしています。



| T&T部門（両備タクシーセンター） |

新サービス「あんしんナビタクシー」

視覚・聴覚などに障がいのあるお客様が安心して利用できるよう、両備タクシーセンターでは事前登録制サービスの導入を検討しています。お客様の希望や必要な配慮を把握し、乗車時の対応を円滑にすることで、誰もが使いやすいタクシーを目指し、サービス向上と社員のスキル向上に取り組んでいます。

※サービス内容・名称は仮です。



Next

働く仲間とともに — 01 社員の幸せ = 健康 × 能力 × やる気 + 夢

健康

| 社会貢献部門（両備健康づくりセンター） |

両備健康づくりセンターを中心とした社員の健康サポート

両備健康づくりセンターは「健康管理」「健康増進」「福利厚生」の3本柱で社員の健康を支援しています。健康診断の助成や、健康塾（メタボ予備軍に対する減量支援）、元気塾（若年層への意識改革と行動変容）、ウォーキングキャンペーンや健康相談などを実施しています。また、全国利用可能な助成制度を展開し、グループ各社は健康経営優良法人に認定。職場環境と社会的価値の向上に貢献しています。

| くらしづくり部門（サルボ両備） |

健康になれる社員食堂

サルボ両備が運営する杜の街グレースオフィススクエア「ピクニックテラス」では、日清食品開発の分子栄養学に基づく「おいしい完全メシ」を提供。緑豊かな開放的空間で心身をリフレッシュさせながら、誰もが利用できる健康志向のカフェテリアを目指しています。また社員食堂としても機能し、栄養面から社員の健康維持を支援しています。



| くらしづくり部門（両備ヘルシーケア） |

介護用アシストスーツの試験導入

両備ヘルシーケアでは、社員の介護負担軽減のため、介護用アシストスーツを試験導入しています。入浴介助や移乗介助等に必要な姿勢・動作をアシストしてくれるため、社員の負担軽減、特に腰痛予防への効果が期待できます。

能力

| グループ横断 |

サクセッションプラン

サクセッションプランとは、会社の重要なポジションの後継者を見つけるための計画です。両備グループでは、グループ役員を重要なポジションと定め、その後継者を見つけて育てる仕組みをスタートさせます。登用に値する人財を早期に見つけて育てることに注力すること、属人的対応から脱却し、構造的で透明性のある選抜プロセスを実現することを目指しており、NEXT人財：2-3年後の経営幹部候補（52歳未満）FUTURE人財：将来のNEXT人財候補（40歳未満）上記2つに分けて育成する制度を構築します。

| グループ横断 |

社員一人ひとりのキャリア形成支援

両備グループでは、社員のキャリア形成を支援するため「キャリアライフ支援室」を設置し、秘密厳守のもとキャリアコンサルタントによる面談を実施しています。さらに、年1回の異動希望調査やグループ内公募制度を通じ、両備グループの多様な業種を活かした柔軟なキャリア選択が可能な体制を整えています。



Next

| 社会貢献部門（HTC） |

ヒューマントレジャーセンターによる研修プログラム

両備グループヒューマントレジャーセンター（HTC）は、グループ全社員を対象に階層別の一貫教育を行ない、生産性の向上や付加価値の高い仕事へのシフトを支援しています。経営理念である「忠恕（真心からの思いやり）」ブランド推進を目指し、経営管理基礎講座（通称：両備大学）」やDX推進人財育成研修など、年間約40種の講座を計画的に展開。中でもアンダー30・アンダー25活動といった若手社員向けの研修では、コミュニケーション力やリーダーシップを育み、仲間との協働による成功体験から学ぶことで、次世代の経営幹部候補を育成するサクセッションプランにもつなげています。



やる気

| グループ横断 |

エンゲージメント向上につながる表彰制度

両備グループアワードは、両備グループにおける最高峰の表彰制度であり、社員やチームの卓越した業績や貢献を称える場です。企業理念「忠恕（ちゅうじょ）」に基づき、社会正義・お客様第一・社員の幸せを実践し、持続可能な発展に寄与した個人やチームに贈られます。表彰は、各事業をけん引した個人やプロジェクトに贈られる「トップランナー賞」、年度を通じて顕著な功績をあげた会社に贈られる「企業大賞」などで構成されており、社員の努力や成果を正に評価することで、エンゲージメントの向上と組織への誇りの醸成につなげています。また、各事業部門や事業ユニットの表彰制度においてトップカテゴリーを受賞した社員もこの場に招待され、グループ最高峰の場にふさわしい盛大なパーティ会場で祝福されます。



部門・ユニット表彰例

- 無事故・無違反表彰（交通運輸部門各社）
連続達成年数に応じて褒賞がアップし、安全意識と責任感の向上に寄与。
- 月間MVP表彰制度（両備タクシーセンター）
「電話取得率」「ミス件数」「顧客登録件数」に基づき、毎月上位10名を表彰。健全な競争と公平な評価が職員の意欲と業務品質を高めています。
- RSG-WayAward（ICT部門）
「やりがい」「成長機会」「誇り」「挑戦風土」の強化を目的に、行動指針の浸透とエンゲージメント向上を推進。

| グループ横断 |

JB制度（JB=Junior Board:青年重役会）

「両備JB（ジュニアボード）制度」は、両備グループの中堅社員が自らの視点でグループの未来を構想し、提言する制度です。約1年にわたり、新規事業の立案に加え、同業他社や異業種への視察、さらには海外での先進事例の吸収など、現場を飛び出して学びと挑戦を重ねます。視野を広げたくうえで練り上げた提案は、経営トップへ直接提言され、実際の事業や改革の種として活用されることも。グループの未来を担う人財が、自らの想いとアイデアをカタチにできる、実践型の成長機会です。

| グループ横断 |

社員と経営層の交流会

両備グループでは2022年度より、経営幹部と社員が自由に交流できる「松田さん（グループCSO）と三宅さん（グループCOO）と社員が集う会」を3カ月ごとに開催しています。部門や世代を超えた対話を通じて、横のつながりやモチベーション向上を図っており、今後は県外事業所でも実施予定です。



| グループ横断 |

両備グループ全社対象社員満足度調査

両備グループでは年1回、全社員対象社員満足度調査を実施し、社員の声を経営に活かしています。結果は全社に共有され、各部門での改善活動に活用。技術系社員が多い中、2025年度からは紙回答を廃止しタブレット導入で完全WEB化。迅速かつ正確な意見収集が可能となることで、スピーディな職場環境や制度の改善に貢献しています。

| グループ横断 |

互いを褒め合う職場文化

両備グループでは、社員同士が互いの行動や成果を認め合い、称賛する「褒める文化」が職場の活性化と人財育成の柱として根付いています。これは単なる表面的な称賛ではなく、相手の「思いやり」や「挑戦」を尊重し、行動を促す仕組みとして機能しています。褒める文化は制度としても整備されており、その取り組みが優秀な会社は両備グループアワードでも表彰されます。

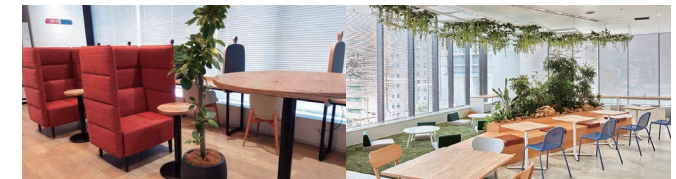


健康 / やる気

| グループ横断（ICT部門・両備ホールディングス・両備システムズ） |

生き生きと働けるワークプレイス

両備ホールディングスと両備システムズは、岡山の新ランドマーク「杜の街グレース」のオフィススクエアに本社を移転し、未来志向の働き方を象徴する先進的なオフィスづくりを進めています。両備ホールディングスは2021年に5階に移転し、「毎日出社したくなるオフィス」を目指してインテリア・ICT・セキュリティにまでこだわった快適な空間を構築。2025年度には個室ブースも導入するなど、柔軟な働き方を支えています。両備システムズは2022年に4階へ移転し、中国ニューオフィス賞を受賞するなど高い評価を獲得。杜の街グレースのオフィススクエアは、両社の理念と働き方改革を体現する場として、社員の創造性と快適性を両立させる空間へと進化を続けています。また、両備システムズは2024年には東京本社を移転、今後は豊成オフィスの改装予定もあり、さらなるブランド力と生産性の向上を目指しています。



夢

| グループ横断 |

社員一人ひとりの夢の見える化と支援

両備グループでは、社員の「夢」を原動力とし、その実現を支援することで企業の成長につなげる取り組みを進めています。「夢」は社員の行動を促す力であり、進むべき道を明確にする指針でもあります。2025年度から、人事システムを活用して社員一人ひとりの夢を見る化し、組織と連動したタレントマネジメント体制を整備しています。具体的には、上司が社員の夢に対して支援方法を考える習慣づけを促すために、事務系職種の目標管理表にも「夢」の項目を追加し、面談時に進捗確認と支援ができる仕組みを導入しました。夢の内容は業務・プライベートを問わず、会社はそれぞれに応じた支援を行ないます。社員が夢に向かって意欲的に働くことで、個人の成長と企業の活力向上を両立させることを目指しています。



Next

02 社員とご家族の生活を豊かに

嬉しい福利厚生

| グループ横断 |

Next

屋根とお腹のプロジェクト

両備グループは、社員が生活に困らず一生働き続けられる会社を目指して、「屋根＝住」と「お腹＝食」の福利厚生制度を強化する「屋根とお腹のプロジェクト」に取り組んでいます。たとえば、グループの取引網を活かして、日々の食事に欠かせないお米を安定して提供できる仕組みの導入や、住宅購入の補助などを検討しています。社員一人ひとりの生活に寄り添い、働きやすさだけでなく、暮らしや安心にもつながる制度となることを目指しています。



| まちづくり部門（和田コーポレーション） |

持家手当の支給

和田コーポレーションでは、社員の住宅取得を支援するため、本人名義の持家に居住する従業員に毎月持家手当を支給しています。この制度により社員の約60%が持家を所有しており、住宅販売業として社員の購入経験も重視しています。

| グループ横断 |

福利厚生ポータルサイト

社員とご家族が「グループの一員でよかった」と実感できるよう、健康・生活・仕事のあらゆる面で福利厚生制度・サービスの充実に努めています。2023年春には、これらの制度をより身近に感じられるよう、グループの福利厚生を集約したWEBサービス「両備福利厚生ポータルサイト」を開設しました。スマートフォンなどからご家族とともに閲覧でき、必要な情報をタイムリーかつ簡単に検索できます。また、2024年からは全国のグループ社員にご利用いただけるようサービスを拡充し、全国スポーツクラブ会費助成、介護・リハビリ料金やベビーシッター料金の助成、全国の提携施設（ホテル、衣料品等）割引、両備グループ提供商品の期間限定割引キャンペーンなど、様々なサービスを提供。社員が安心して幸せに働ける環境づくりを目指し、制度と情報提供の両面から取り組みを進めています。



| グループ横断 |

ランドセルプレゼント

小学校へ入学されるご子息・ご令嬢がいらっしゃる社員に対して、小学校ご入学をお祝いして、ランドセルをプレゼントしています。お子様からの「ありがとう」の声も多く聞かれ、贈る方も贈られる方もお互いに幸せになる仕組みです。

| グループ横断 |

すべての社員が平等に情報へアクセスできる環境づくり

両備グループは、会社からパソコンやスマートフォンなどの端末が支給されていない社員にも情報が届くよう、現場へのデジタルサイネージの設置や専用タブレット端末の導入を進めています。アンケートのWEB化も進め、誰もが平等に情報へアクセスできる環境整備と、使いやすさに配慮した仕組みづくりを推進しています。

| グループ横断 |

バイ両備

「バイ両備」は、両備グループの社員がグループ内の商品やサービスを特別料金やポイント還元で利用できる制度です。交通、スーパー、飲食、不動産など多様なサービスを通じ、社員の生活を応援する独自の福利厚生メニューとなっています。

| グループ横断 |

両備グループ部活動応援プロジェクト

両備グループでは、社員有志による20以上の部活動が展開されており、会社は活動費の一部支援や部員募集をサポートしています。部活動は、部署を越えた社員同士の交流を促進する貴重な場として活用されています。



03 多様な人財、多様な働き方

ジェンダー格差解消

| グループ横断 |

女性リーダー育成に向けた取り組み

両備グループは、企業のイノベーションとエンゲージメント向上を目指し、女性管理職の登用を推進しています。2030年までに女性管理職比率10%を目標とし、各年代に応じた育成プログラムを通じて、女性の視点と強みを活かした人財育成に取り組んでいます。

| グループ横断 |

若手女性社員育成プログラム KiraRi☆

KiraRi☆は、両備グループの20代女性社員が主体となり、感性やアイデアを活かして商品・サービスの開発や社内外のつながりを創出する活動です。グループの枠を超えた連携を促進し、社員一人ひとりの個性と可能性を引き出すことを目指しています。

| T&T部門（岡山両備タクシー） |

女性・シニアドライバーの積極採用

岡山両備タクシーでは、全スタッフが女性のグレースタクシーカンパニーを運営し、きめ細かなサービスを提供しています。今後は女性やシニアの採用を強化し、時短勤務や週休3日制など柔軟な働き方を導入し、多様な人が安心して働ける環境を整備していきます。



幸せに働ける職場づくり

| グループ横断 |

ライフステージの変化に合わせた多様な働き方

両備グループでは、育児や介護と両立しながら働けるよう、正社員の身分を維持しつつ柔軟な勤務が可能な「フレキシブルワーク・プラン制度」を導入しています。さらに、ベビーシッター割引や保育所との提携など、多様な支援制度を整えています。



外国人材

| グループ横断 |

外国人採用の拡大

両備グループは人財不足への対応だけでなく、多様な価値観を取り入れた組織変革を目指し、外国人社員の採用を推進しています。2024年の特定技能ドライバー雇用解禁を機に、新たな採用スキームを構築し、グローバルな組織づくりを進めています。

ニッコー観光バス

2024年、日本のバスドライバーを夢見るインドネシア国籍の外国人社員を採用し、特定技能1号の在留資格取得を支援。教育の結果、同年12月に日本初の合格者となりました。現在は日本語力や運転技術をさらに磨き、2025年度中のバスドライバーデビューを目指しています。



両備トランスポート

ベトナムやミャンマーの現地法人と連携し、物流事業における外国人雇用スキームの構築を検討中です。現地での人財育成や、日本での生活・業務支援体制を整備し、言語・文化の違いを尊重しながら、安定的な受け入れと高品質なサービス提供を目指しています。

両備ヘルシークア

将来の介護人材不足に備え、特定技能介護の資格を持つ海外人材を雇用しています。日本語や介護技術の教育体制を整えるとともに、ベトナム語サークルを通じた交流など、温かく受け入れる環境づくりにも取り組んでいます。

| まちづくり部門（両備ウェルネス・両備アグリウェルネス） |

障がいのある方が長く働ける仕組みづくり

両備グループは、障がいのある方の就労支援を目的に、2022年に「両備ウェルネス」を設立しました。さらに2025年には、農業を通じて福祉と連携しながら働く場を創出する「農福連携」の取り組みとして、就労継続支援A型事業所を開設し、あわせて運営法人として「両備アグリウェルネス」を設立。障がいのある方を雇用し、植物工場などでの就労機会を提供しています。農業と福祉を組み合わせたこの取り組みは、個々の得意分野に応じた作業や心身の安定を重視しながら、復職支援や社会参加の機会を広げるものです。誰もが安心して働ける環境を整えながら、新たな農業のかたちも実現することを目指しています。

デジタル人材育成

| グループ横断 |

Next

IT人材の配置

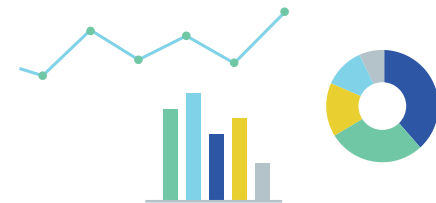
両備グループは交通運輸、くらしづくり、まちづくりなどの事業においてITを活用し、現場力と理論の融合を進めています。両備システムズと連携し、各部門にIT人材を配置。現場での教育を通じて、若手からシニアまで幅広くITリテラシーの向上に取り組んでいます。

| ICT部門（両備システムズ） |

データサイエンティストの育成

両備システムズでは、データ活用による新たな価値創出を目指し、2024年6月より社内向けにデータサイエンティスト育成プログラムを開始しました。AIやデータ活用の基礎から応用までを学び、ビジネス成長に貢献できる人材の育成を進めています。2026年までに、BIエンジニア・データエンジニアとしての技術スキルだけでなく、技術力とビジネス力を兼ね備えたデータサイエンティストを5名程度育成する予定です。まずは技術力（BI・データエンジニアリング）を習得し、その後、ビジネス力を高めながら、段階的にデータサイエンティストへと育成していきます。また社内および両備グループ内でのデータ活用アイデアの創出と実績の積み重ねを通じてノウハウを蓄積して、将来的には成長エンジンとなるデータビジネスの事業化を目指していきます。

※BIエンジニアとは、企業のデータを収集・分析し、BI（ビジネスインテリジェンス）ツールを用いてデータ可視化やレポート生成を行なうことで、戦略的な意思決定を支援する専門職です。



| ICT部門（両備システムズ） |

地域に開放したクラウドエンジニア体験スクール

DXの進展に伴いIT人材不足が深刻化する中、両備システムズは岡山県のIT人材を将来にわたり育成していく土壌づくりに貢献したいと願い、2022年からクラウドベンダーと連携し、地域のIT業界未経験者向けにクラウドエンジニア体験スクールを無料で開催しています。

| グループ横断 |

デジタル人材育成の取り組み

両備グループでは、ヒューマントレジャーセンターを主幹に、社員がAI・DXの基礎から実践までを段階的に学べる体制を整え、現場の声を反映した実効性の高い育成プログラムを設計しています。幹部層から現場社員まで幅広く対象とし、組織全体のデジタル対応力の底上げを目指しています。

2025年度に実施/計画中の研修の例

AIの活用

生成AI超入門編勉強会（約150名参加）/eラーニング講座/実践的なハンズオン研修/個別指導形式のAI研修（幹部向け）

DX人材育成

DX講演会（幹部向け）/

バス・鉄軌道ユニットでのDX人材育成プログラム実施（今後、他部門へも展開予定）



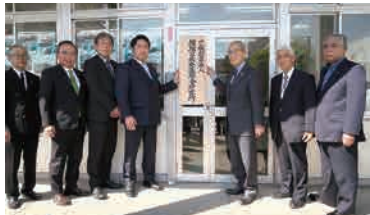
image photo

持続可能な公共交通を目指すための取り組み

社会貢献部門（地域公共交通総合研究所）

地域公共交通総合研究所

地域公共交通総合研究所は、両備グループが2013年に設立したシンクタンクで、人口減少や高齢化が進む地域の交通再生を目指しています。欧州型「公設民営」モデルの導入を推進し、自治体や事業者と連携して制度設計や運行計画を支援。実践的な研究と提言を行なっています。



T&T部門

宇宙一本気(マジ)な乗務社員採用プロジェクト

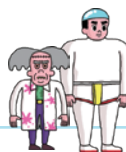
両備グループは、地域の交通インフラを支える人材確保のため、2023年6月に「宇宙一本気な乗務社員採用プロジェクト」を開始。2024年からのシーズン2では「稼げる・働きやすい・誇れる」を掲げ採用強化を進行中。2025年には岡山電気軌道でバスと電車の「二刀流」乗務社員の採用も開始しました。この取り組みは、交通運輸サービスを「大規模に・安定的に・継続的に」地域に提供し続けるためのものです。目指すのは、人口が減らない地域、そして人々に選ばれる魅力ある地域づくり。交通の未来を支える仲間とともに、地域の持続可能な発展を目指しています。



T&T部門

進(シン)・宇宙一面白い公共交通を目指すプロジェクト

両備グループは2023年4月より「進・宇宙一面白い公共交通を目指すプロジェクト」を推進し、地域の魅力や話題性を取り入れた企画バスを運行しています。企業や学校とのコラボレーションを通じた情報発信により公共交通への関心を高め、利用促進による渋滞緩和や脱炭素に貢献。公共交通をもっと楽しく、わかりやすく、使いやすく、「サービス業」としての進化を目指し、日々の移動がより快適で魅力的な体験となるよう取り組んでいます。



T&T部門（バス事業各社）

持続可能な公共交通ネットワークを目指して

岡山市は持続可能な公共交通ネットワークの実現に向け、「地域公共交通利便増進実施計画」を策定し、岡電バスや両備バスがその推進に参画しています。2028年度までに郊外を中心とした新路線を整備し、駅間や拠点間を結ぶネットワークを構築。市が施設を整備し民間が運行する公設民営方式も検討し、行政と連携して利便性向上と地域活性化を図ります。

T&T部門（両備バス）

沿線企業訪問による利用促進活動

両備バスでは、公共交通をより身近に感じてもらうため、月に一度「公共交通の日」を設けています。この日に合わせて利用促進や情報発信を企業・団体と連携して実施し、利便性や環境への配慮を伝えることで、地域で支える持続可能な移動手段の定着を目指しています。



T&T部門（国際両備フェリー）

無人運航船プロジェクト「MEGURI(めぐり)2040」参画

少子高齢化による船員不足と離島航路維持の課題に対応するため、「MEGURI2040」プロジェクトとして自動運航システムの導入検討が進んでいます。国際両備フェリー岡山航路もこれに参画し、便数の維持や夜間運航の実現を目指すことで、離島地域の暮らしや産業を支える持続可能な航路づくりに貢献していきます。



Next

Next

持続可能なモビリティへ

T&T部門（岡山交通）

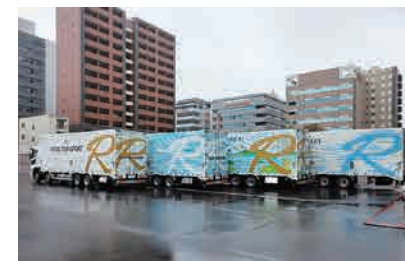
JPN TAXIへの代替

タクシーでは従来からガソリンと比較して炭素排出量が少ないLPG車を使用していますが、さらに環境負荷の少ないLPGハイブリッド車「JPN TAXI(ジャパンタクシー)」などの導入を推進中です。2050年のカーボンニュートラル達成に向け、2030年度までに2013年度比で炭素排出量を50%削減することを目標に、計画的な車両更新を進めています。

T&T部門（両備トランスポート）

ゴールドR(アール)のトラック導入

両備トランスポートは2023年より、新デザインの「ゴールドR」トラックへの入れ替えを進めています。このデザインには「Resilience(強靭さ)」と「Rewarding(やりがい)」の想いが込められ、変革に挑む姿勢と物流事業者としての誇りを象徴しています。また、導入する車両は動力性能の向上により燃費改善が図られ、従来車両に比べて環境負荷の少ない輸送を実現しています。今後はさらに空力性能を高めたスーパーハイルーフ車の導入も順次進め、効率的で持続可能な物流の実現を目指します。



子どもたちを笑顔に

T&T部門（両備バス）

バスの乗り方教室

両備バスでは、沿線の小中学校を対象に「バスの乗り方教室」を実施しています。子どもたちが乗車マナーや安全な利用方法を体験を通じて学ぶことで、公共交通への親しみを育み、将来の利用促進につながるよう取り組んでいます。今後も地域と連携し、公共交通の役割を伝える活動を継続していきます。



T&T部門（フェリー事業各社）

「こども船長体験」の実施

国際両備フェリーや神戸ベイクルーズでは、「こどもの日」や「海の日」に小学生を対象とした「こども船長体験」を実施しています。抽選で選ばれた子どもたちが操舵室でのアナウンスや見張り、船内見回りなどを体験し、海や交通への関心と理解を深める機会を提供しています。



グループ横断

りょうびキッズカンパニー

「りょうびキッズカンパニー」は、子どもたちに普段見ることのできない現場や、なかなか体験できない“本物”の仕事に触れてもらうことで、将来の夢やあこがれを育ててほしいという想いから生まれた、小学生向けの両備グループのお仕事体験プログラムです。両備グループが展開する多彩な業種を活かし、実際に働くプロが“上司”となって、子どもたちに仕事の楽しさややりがいを伝える「ガチお仕事体験シリーズ」を年3回程度開催しています。子どもの頃に抱いた強いあこがれは、大人になっても心に残り、時に人生の原動力になる。そんな記憶を子どもたちに届けることを目指しています。



サステナブルなFOOD

くらしづくり部門（サルボ両備）

サステナブル・ウェルネス対応のメニュー開発

サルボ両備では、「糖質オフ」「グルテンフリー」「低カロリー」など、健康志向に応えるメニューの開発を進めています。さらに、野菜の切れ端を活用した「エコメニュー」や地元のオーガニック・フェアトレード食材を取り入れ、体と地球にやさしい持続可能な食の提供を目指しています。



くらしづくり部門（サルボ両備）

フードロス削減につながるシステム利用

サルボ両備では、原価や在庫管理をデジタル化し、フードロス削減と適正価格での提供を実現しています。さらに、売上データに加え、曜日・天気・イベント情報を利用して発注量を自動調整。環境にも配慮しながら、無駄のない安心でおいしい食事の提供に努めています。

くらしづくり部門（両備ストア）

地域生産者や企業との連携による地産地消の推進

両備ストアカンパニーでは、地元農業サービス会社や生産者と連携し、店舗やイベントでの販売に加え、ファーム体験にも取り組んでいます。産地直送の新鮮野菜や岡山県産の和牛、地元食材を使った弁当・総菜、焼き菓子ブランド「グレースパーラー」などを通じて、岡山の食の魅力を発信しています。

グループ横断

ROF(両備OBファーマーズ) 農産物

両備グループには、グループ経営理念である「忠恕(真心からの思いやり)」を体現し、退職後も社員同士がつながり続ける場を提供することを目的としたOB会「忠恕の会」があります。同会メンバーの中で、農業に従事するOBの集いをROFと称し、地域とつながるイベントを実施しています。毎年7月に開催する即売会は、地域貢献を実感でき、生きがい創出につながるとしてOBにも好評のイベントとなっています。

Mission

4 地方創生とサステナブルな社会の実現への貢献

7 国内外市場での成長戦略と地域密着の両立

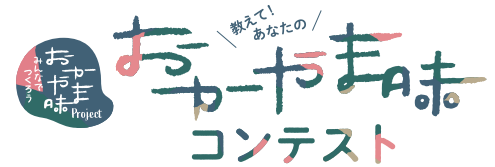
02 食・仕事・子どもの未来への取り組み

サスティナブルなFOOD

｜くらしづくり部門（両備ストア）｜

おかやま味コンテスト

両備ストアカンパニーは、2022年より「教えて！あなたの『おかやま味』コンテスト」を開催。家庭で親しまれるレシピを商品化・販売し、地域の人々が感性や経験を発信できる場を提供しています。選考通過者は「おかやま味アドバイザー」として商品開発にも参加し、岡山の新たなソウルフード創出と人々の成長と誇りにつながっています。



過去のおかやま味コンテストグランプリ受賞レシピ



第1回グランプリ
テーマ：ジャンル不問
「ナスと豚バラのスタミナ丼」

第2回グランプリ
テーマ：豚肉（やまと豚）
「オムポークチャップ丼」

第3回グランプリ
テーマ：麺
「豚しゃぶれんこんパリ麺サラダ」

｜くらしづくり部門（サルボ両備）｜

ファーマーズユニオンによる地産地消の推進

サルボ両備では、地元生産者と協力し、地産地消を推進する「ファーマーズユニオン」の活動を展開。必要な量だけ新鮮な食材を届ける仕組みを整え、規格外品も有効活用することでフードロスを削減。環境に配慮しながら地域の“おいしさ”を守る取り組みを進めています。

｜くらしづくり部門（両備ストア）｜

両備まごころネットスーパー

両備ストアカンパニーは、忙しい日々を送る人々を支えるため、2023年より「両備まごころネットスーパー」を運営しています。24時間注文可能で、最短当日配送や時間指定にも対応。岡山市北区・南区・中区の一部地域を対象に、新鮮な食品を鮮度を保って自宅まで届け、地域に寄り添う便利な買い物サービスを提供しています。



03 地球にやさしく

新エネルギー

｜くらしづくり部門（両備エネシス）｜

真庭市 小水力発電事業

2024年5月、真庭市・森とみずのちから・両備グループ（両備エネシス）は、小水力発電事業推進に関する連携協定を締結しました。2024年9月には協議会を設立し本格始動。現在は複数の河川で流量調査を実施しており、調査結果をもとに有望な河川を選定し、真庭市での小水力発電所設立を目指しています。



｜まちづくり部門（両備不動産東京）｜

地熱発電施設を取得し運用実験

両備ホールディングスは2022年に大分県にあるバイナリー地熱発電施設を取得し、運用に関する実証実験を進めています。地熱発電は太陽光に比べて発電可能エリアが限られる一方、昼夜問わず熱エネルギーを取り出すことが可能なため安定した発電を期待されています。この実証実験は蓄電池利用や電力市場での運用等を想定して推進しているものです。



｜グループ横断（両備グループサスティナビリティ本部）｜

グループ各拠点への太陽光パネル設置

両備グループでは、複数の事業所に太陽光パネルを設置し、自ら電気をつくり使う取り組みを進めています。これにより電力会社からの購入電力量を減らし、電気代やGHG排出量の削減につながっています。さらに今後は、発電した電気の「余剰分」をグループ内の他の事業所へ融通する仕組みを整備するとともに、太陽光と農業を組み合わせた「営農型太陽光発電」の検討も進めています。営農型とは、農地に太陽光パネルを設置して再エネを生み出しながら、農業も同時に行なう仕組みで、地域の活性化にもつながる新しい挑戦です。オンサイトでの導入に加え、こうした多様な取り組みを組み合わせることで、両備グループは2030年のGHG排出量削減目標に挑戦し続けていきます。

｜くらしづくり部門（両備エネシス）｜

カーボンオフセット-LPG供給開始

両備エネシスは、2025年6月より、「カーボンオフセットLPG」の取り扱いを開始しました。これは、LPGの生産から燃焼消費までの全てのバリューチェーンで発生する温室効果ガスを、認証機関の環境保全プロジェクトによるカーボンクレジットで相殺し、CO₂排出実質ゼロを目指す取り組みで、今後も供給業務を推進し、より一層の脱炭素社会への実現に貢献します。

ごみ削減からゴミゼロへ

｜くらしづくり部門（両備ストア）｜

地域住民のリサイクル推進

両備ストアカンパニーは、山南・雄町・泉田・藤田の各店舗にリサイクルステーションを設置し、古紙やペットボトル、食品トレーのリサイクルを推進。リユース品の活用も進め、循環型社会の実現を目指しています。2025年8月からは全店でペットボトルのボトルtoボトルリサイクルを開始し、100%サスティナブル化を目指しています。



価値再生

｜くらしづくり部門（礎コラム）｜

不動産の価値再生

礎コラムでは2025年度から、不動産の価値再生に取り組んでいます。古民家や遊休不動産を壊さずに用途や形を柔軟に変えることで、地域に新たな価値を提供。環境負荷を抑えつつ、歴史や風景を活かした空間づくりを通じて、持続可能で活気ある地域づくりを目指しています。

｜くらしづくり部門（両備ヘルシーケア）｜

リフォーム介護施設の展開

両備ヘルシーケアでは、地域に根ざした病院や旅館をリノベーションし、介護施設として再活用しています。地域の信頼を引き継ぎつつ、温泉や旅館風の昼食を提供するデイサービスなど、建物の特性を活かした独自の介護サービスを展開し、施設に新たな価値を創出しています。



｜くらしづくり部門（藤倉工務店・礎コラム）｜

「ゼロ廃材」現場管理ルールの徹底

両備グループの建築会社である藤倉工務店、礎コラムでは環境配慮型施工として「ゼロ廃材」現場管理ルールを徹底し、廃材の発生を最小限に抑える取り組みを進めています。養生材の再利用や仕上げ材の適切な保管、余剰資材の他現場活用を実施し、無駄の削減と高品質施工を両立。持続可能な建設を通じて環境負荷を低減し、お客様に安心と付加価値を提供しています。



｜まちづくり部門（まちづくり）｜

お客様のニーズに合わせた不動産有効活用

まちづくりカンパニーでは、不動産の価値最大化を目指し、リノベーションや用途変更、新規取得と活用を推進しています。老朽化した賃貸マンションを学生寮へ建替えるなど、収益性と地域貢献を両立する活用モデルを展開。今後も遊休地や既存資産を活かし、地域に根ざしたソリューションを提供していきます。

｜くらしづくり部門（両備テクノモビリティー）｜

次世代モビリティー普及への貢献

両備テクノモビリティーカンパニーでは、EVやハイブリッド車の普及に対応し、整備技術の向上とレストアにも注力。整備士が多様な技術を習得し、車両に新たな価値を吹き込みます。旧型バスやクラシックカーのEV化を行なうEVコンバージョン事業では「新車を買って続ける」から「電気へコンバージョンして、古いものを大切に使い続ける」へのパラダイムシフトを提案。2025年度からは新型クラシックMINIをEV化しており、懐かしさと最新技術が融合した特別な一台を届ける取り組みを進めています。



地球にやさしい住まい

｜まちづくり部門（和田コーポレーション）｜

環境にやさしいマンション

両備グループのマンション事業では、省エネ設備やEV充電器、防災倉庫の導入など環境配慮型の住まいづくりを推進。既存物件にはリフォームを提案し、和田コーポレーションでは全物件にZEHマンション※を採用。四国電力と連携したオール電化マンションの展開にも力を入れています。安心で持続可能な暮らしを実現しています。



※ZEH（ゼッチ）…Net Zero Energy House（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の略語。エネルギー収支をゼロ以下にする住宅

｜まちづくり部門（両備ホームズ）｜

環境にやさしい戸建て

両備ホームズは、環境にやさしい住まいづくりを進めています。ZEH対応住宅や高断熱・高気密の設計で省エネを実現し、太陽光発電の活用も積極的にご提案しています。地球にやさしく、快適で持続可能な暮らしをサポートします。



image photo

03 地球にやさしく

GREEN TRANSFORMATION

| ICT部門（両備システムズ） |

GX人材の育成

両備システムズは社員のGX意識向上のため、カーボンニュートラル学習動画の配信やビジネスゲーム形式のワークショップを実施。さらに、GX検定ベーシック資格の取得を推進し、カーボンニュートラル事業準備室を中心に20名が取得。今後は全社的な資格取得支援で保有者の拡大を図ります。



| グループ横断（両備グループサステナビリティ本部） |

脱炭素・環境保護アイデアコンテスト

脱炭素や環境保護に関するアイデアを社員からボトムアップで募り、推進することを目的として、2025年3～6月、両備グループ全体で脱炭素・環境保護アイデアコンテストを実施しました。グループ全社から638件もの応募があり、環境や地域にやさしい取り組みのアイデアが多数集まりました。このコンテストは今後も継続的に実施し、アイデア共有を通じて社員の意識向上と自分ゴト化を図っていきます。



〈受賞アイデアの一例〉

小嶋CEO賞「おかえり！ランドセル」

福利厚生の一貫としてグループ社員のお子様が小学校入学時にランドセルをプレゼントしているが、きれいな状態で6年間使用してもらったものは必要としている海外のお子様などに寄付する仕組みを作る。

松田CSO賞「本社からの発送物の自転車代行配達」

両備ホールディングス本社から岡山市内中心部のグループ各社事業所への発送物を、運送業者に委託して届けている現状がある。そこで、毎日両備ホールディングス本社の清掃を行なう両備ウェルネス社員が、自転車で配達することで、運送にかかるCO₂とコストの削減が可能となる。

| グループ横断（両備グループサステナビリティ本部） |

グリーン調達

環境に配慮した製品やサービスを優先的に選んで購入する「グリーン調達」をグループ全社で進めています。特に事務用品での取り組みが進み、両備ホールディングス本社では2025年度からリサイクルコピーペーパーを導入。全社で同年末までに、環境基準を満たすコピー用紙の購入率100%達成を目指しています。

| グループ横断（両備グループサステナビリティ本部） |

生物調査と生物多様性への対応

岡山・瀬戸内エリアの生物多様性保全につながる取り組みとして、株式会社バイオームが提供するいきものコレクションアプリ「Biome（バイオーム）」を活用した「スマホでさがそう！おかやまのいきもの」というアプリ内イベントを2024年度より実施しています。2024年度は夏休みに合わせて主な事業開発地区である岡山市南部・倉敷市・小豆島全島にて実施し、4,730件の生物データを収集しました。

| グループ横断（両備グループサステナビリティ本部） |

脱炭素コンサルティング事業

両備グループは、約50社の体制構築ノウハウを活かし、地域企業向けにGHG排出量算定や削減支援を行なう「脱炭素コンサルティング事業」を推進。地域の企業様に向けて実情に合った支援を提供するほか、「脱炭素はじめの一歩セミナー」も定期開催し、地域全体での脱炭素の取り組み拡大を目指しています。



| グループ横断（両備グループサステナビリティ本部） |

GHG排出量算定と一元管理

2023年度より、グループ全社で、GHG（温室効果ガス）の算定を行なっています。また、グループとして以下の削減目標に向けて削減施策を実施しています。

両備グループのGHG（Green House Gas = 温室効果ガス）削減目標

両備グループは2030年度までに、2013年度比（※1）でScope1・2（※2）のGHG排出量 38% の削減を目指します。

この目標は、両備グループの事業ポートフォリオと日本の産業部門別NDC（※3）に基づき、日本の2050年のカーボンニュートラル達成のロードマップに準拠しています。2023年度時点で、グループのGHG排出量の約80%は交通運輸部門によるものであり、この部門ではNDCの35%削減目標よりも高い、39%の削減目標を設定することで、地域の脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※1 基準年度2013年度に会社が存在しない等、取得が出来ない会社については、2014年度以降で取得可能な過去年度を基準として設定しています
※2 Scope1…燃料の燃焼や製品の製造などを通じて、企業・組織が直接排出するGHG
Scope2…他社から供給された電気・熱・蒸気を使うことで、間接的に排出されるGHG
※3 NDC（国が決定する貢献）とは、パリ協定に基づいて日本が作成・通達・維持しなければならない温室効果ガスの排出削減目標等です。各国で2050年のカーボンニュートラル達成に向けたNDCが設定されています

| ICT部門（両備システムズ） |

GREEN COMPASS 2050

両備グループICT部門は、2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、環境方針「GREEN COMPASS 2050」を策定しました。本方針では、TCFD提言に基づき、気候関連のリスクと機会を事業戦略に反映させています。2030年までにScope1・2の温室効果ガス排出量を51.2%削減する中期目標を掲げ、ICT技術を活用した環境支援に加え、社員の主体的な行動を促す人材育成にも注力しています。これらの取り組みは、ICT部門4社（両備システムズ、シンク、ドリームゲート、Ryobi AlgoTech Capital）が連携し、全社一体となって推進してまいります。

GRĒEN
COMPASS 2050



04 ノウハウの拡大

日本全国への拡がり

| ICT部門（両備システムズ） |

自治体システムの標準化対応

自治体システムの標準化は、全国の自治体が共通仕様のシステムへ移行し、行政のデジタル化や業務効率化を図る取り組みです。両備システムズは、住民情報や福祉、健康、滞納整理業務の標準化対応システムを全国に提供しています。

- ・健康かるて：住民の健康情報を一元管理し、保健活動を効果的に支援するシステム
- ・R-STAGE：自治体福祉業務を支援する総合福祉システム
- ・THINK CreMaS Advance（シンククレマサドバンス）：滞納整理業務を計画的・効率的に進めるシステム



| T&T部門（両備トランスポート） |

両備ロジサポート岡山ベース（早島新倉庫）稼働

両備トランスポートカンパニーでは、2025年2月に、岡山県都窪郡早島町に「両備ロジサポート岡山ベース」を開設しました。早島ICから約1.9kmと好立地に位置し、福岡～関西、山陰～四国を結ぶ中継拠点として機能します。延床面積18,000㎡の地上3階建て構造で、低床・高床バースを備え、重量物の搬出入を効率化。館内には空調設備や従業員ラウンジを完備し、快適な作業環境を提供します。また、太陽光発電システムを導入し、ZEB Ready※認証取得を目指しています。地域経済の発展と物流の効率化に貢献する拠点として、今後も積極的に取り組んでまいります。

※ZEB（ゼブ）…ネット・ゼロ・エネルギー・ビル



世界への拡がり

| T&T部門（両備トランスポート） |

ベトナム市場の物流サービス拡充

両備グループのベトナム現地法人「RYOBI LOGISTICS PROPERTIES VIETNAM COMPANY LIMITED」は、ホーチミン市近郊のビンズオン省・タンドンヒップB工業団地に新たな倉庫を建設し、2024年12月より営業を開始しました。これにより、ベトナム国内での自社倉庫は3棟目となります。この地域は今後も経済成長が見込まれ、物流ニーズが高まるエリアです。新倉庫はホーチミン中心部から約20kmとアクセスも良く、周辺の工業団地との連携にも適した立地です。既存の倉庫や物流ネットワークと連携し、食品、消費財、自動車、精密機器など幅広い業種に向けて、効率的な物流サービスを提供していきます。両備グループでは、今後もベトナム市場での物流インフラの整備とサービス強化に取り組んでまいります。



| T&T部門（両備トランスポート） |

ASEANコールドチェーン事業戦略

両備トランスポートカンパニーでは、ASEAN地域における冷凍・冷蔵物流（コールドチェーン）事業の強化に取り組んでいます。日本国内では冷凍・冷蔵倉庫の不足が課題となっている中、ベトナムやミャンマーに保有する自社物流施設を活用し、現地と連携した国際輸送体制の構築を進めています。国際輸送では信頼できる物流パートナーと連携し、海外での温度管理物流は両備トランスポートカンパニーが担うことで、食品や医薬品など温度管理が必要な商品の品質を保った一貫輸送を実現。これにより、日本とASEANを結び広域かつ高品質なサプライチェーンネットワークの確立を目指しています。

| ICT部門（両備システムズ・Ryobi Lao） |

ICT事業の海外展開

ICT分野の事業をさらに拡げるため、海外での取り組みを強化しています。特に、成長が期待されるラオスやバングラデシュでの活動に力を入れています。ラオスでは、現地法人「Ryobi Lao」と連携し、デジタルIDの導入など、国のデジタル化を支援するプロジェクトを進めてきました。今後は経済産業省とも協力し、新たな取り組みを展開していく予定です。また、バングラデシュでは、農業のデジタル化（農業DX）や環境に配慮した取り組み（GX）を進めるプロジェクトが2025年2月から始まりました。農業データを活用して、カーボנקレジットの創出や日本の技術・製品の海外展開に向けた調査も行なっています。



| くらしづくり部門（両備テクノモビリティー） |

トレーラー海外市場への参入

両備テクノモビリティーカンパニーは、従来アメリカ中心だった部品調達を、関税対策として台湾などアジア地域へ拡大。安定供給とコスト最適化を図るとともに、調達部品を活用した製品製造を通じて、東南アジアでのトレーラー販売展開にも着手しています。



04 ノウハウの拡大

世界への拡がり

| グループ横断 (海外事業サポート部) |

海外進出アドバイザー事業

両備グループの海外事業サポート部は、2021年よりグループ外企業向けに「海外進出アドバイザー事業」を展開。現地法人設立支援やM&Aにおけるアドバイザー業務、現地企業の紹介などを通じて、実務的かつ多面的に海外展開を支援しています。

| グループ横断 |

海外マッチングビジネス

両備ホールディングスおよび両備グループの投資会社「CASCO INVESTMENTS LIMITED」を主幹として、海外投資家と日本の有望案件をつなぐ「海外マッチングビジネス」を展開。金融機関やコンサル会社と連携し、相互の投資ニーズに応え、日本企業の海外進出や地域経済の活性化を後押ししています。



| グループ横断 (たまルンプロモーションセンター) |

中国での県産品展示会実施

たまルンプロモーションセンターは、2024年10月、「Okayama SAKE Fair in QingDao(岡山の酒フェア in 青島)」を中国・青島市で開催。旅行会社や現地販売店に岡山の酒や観光の魅力を紹介し、日本酒の輸出拡大を目指しました。イベントは中国メディアで180万回以上閲覧され、海外発信の成果を上げました。今後も、海外での岡山の魅力発信を推進してまいります。



05 地域の文化を守り・育てる

ミシュラン一つ星

| 社会貢献部門 (夢二郷土美術館) |

夢二郷土美術館

夢二郷土美術館は、岡山が生んだ詩人画家・竹久夢二の作品と精神を伝える美術館として、地域文化の継承と創造に取り組んでいます。ミシュランガイドでは一つ星を獲得。2024年に夢二生誕140周年、2025年には美術館創立60周年を迎え、地域とのコミュニケーションをさらに深めています。展示空間では、心身のリフレッシュや知的刺激を促す文化的ウェルビーイングの提供を目指しており、グループ内のヘルシーケア事業との連携も進行中。また、地域の子どもたちが夢二の芸術に触れ、郷土への誇りと感性を育む教育活動「こども学芸員」制度も展開しています。SDGsに則った環境配慮型の運営や地域資源の活用にも積極的に取り組み、「地域にも、子どもたちにも、地球にもやさしい」両備グループの象徴的な施設として、地方創生とサステナブルな社会の実現に貢献しています。



質の高い地域社会へ

| 社会貢献部門 (両備裡園記念財団) |

両備裡園(ていえん)記念財団による研究助成

両備裡園記念財団は真に質の高い地域社会の実現のため、萌芽性、新規性および独創性のある内容をもった生物学分野の研究を奨励し、振興を図り、新産業を創出することを主旨として1972年に設立しました。岡山県下における同分野の学術研究への助成、および、芸術、教育、スポーツ振興および文化財の保護・保存に寄与することを目的としています。



06 WONDERFUL

地域を元気に

| グループ横断 (たまルンプロモーションセンター) |

たまルンカード・たまルンMALL

「たまルンカード」は、両備グループや岡山地域の加盟店で利用できる共通ポイントサービスです。WEBサイトやアプリを通じて情報を発信し地域の活性化に貢献しています。利用頻度の高いお客様には「たまルンゴールドカード」を発行し、両備グループ各店での優待や特典をご提供。今後は、ロイヤルティプログラムの展開も目指しています。ECサイト「たまルンMALL」では、生産者へのインタビューなどを通じて商品の背景を紹介し、瀬戸内エリアの小規模事業者の販路拡大にも寄与しています。



| グループ横断 |

グループ一斉清掃活動の実施

「これまで育ててくださった地域への感謝の気持ちを清掃活動で表現しよう」という想いで、両備グループは地域への感謝を込めて2024年より全事業所で清掃活動を開始。2024年7月の活動では九州から東北まで全国170以上の事業所が参加し、バス停や公園、港、高速道路のSAなどを清掃。地域ごとの課題に応じた工夫を凝らしながら取り組みました。今後も春と秋の年2回、継続的に実施していきます。



| グループ横断 (ウェルビーイング事業部) |

RR(ダブルアール) Conditioning & SPA

両備グループが杜の街グレース内で運営する総合ウェルネスクラブ「RR Conditioning & SPA」は、2024年12月に岡山市初の「温泉利用型健康増進施設」として厚労省認定を取得。運動と温泉を合わせた独自プログラムにより、生活習慣病などへの対策と健康増進を支援。医療費控除も活用可能で、地域の健康づくりに貢献しています。



SETOUCHI な取り組み

| グループ横断 (グループワッショイサポート部) |

児島デニムを使用した遠征着の作製

グループワッショイサポート部は環太平洋大学サッカー部に対して児島デニムを使った遠征着の導入を支援しており、4年間着用可能な移動着として活用いただいています。修繕保証を付けることで環境負荷を軽減し、SDGsにも配慮しています。統一デザインの着用は岡山や児島デニムのPRにもなり、地域の魅力発信と学生の一体感を高める取り組みとして注目を集めています。



WONDERFUL SETOUCHI

| T&T部門 (岡山交通) |

イエロースペシャルティシリーズ

岡山交通では、黄色いタクシーと岡山の魅力を融合させた「YELLOW SPECIALITY」シリーズを展開。第4弾の「酒米・雄町タクシー」では試飲や食事を楽しめる観光プランもご提供。また、岡山県発祥の「点字ブロック」をテーマにした第5弾では、点字ブロックの誕生背景や役割を多くの方に知っていただくことで、ユニバーサルデザインの理解促進を図り、誰もが安心して移動できる社会への貢献を目指しました。「YELLOW SPECIALITY」シリーズは、街を走だけでなく、車両展示や乗車体験などを通じて、地域の魅力発信と観光促進に貢献しています。



訪日観光客のおもてなし

| グループ横断 (たまルンプロモーションセンター) |

中国からのインバウンド送客事業

訪日観光客の西日本への拡大を見据え、地域店舗ではインバウンド対応が進行中。地域の店舗が海外からの旅行者を迎える準備を進める動きが出てきています。たまルンプロモーションセンターは、中国旅行会社と連携するサービス「JP酷鵬(クーポン)」の日本総代理店として、店舗と観光客をつなぐ支援を展開。導入企業ではすでに中国からの来客があり、新たな来店促進や地域の活性化が期待されています。



| T&T部門 (岡山交通・岡山両備タクシー) |

インバウンド向け多言語対応タクシー

岡山交通・岡山両備タクシーは、インバウンド対応強化のため英語・中国語対応ドライバーを育成し、訪日観光客にも安心なサービス体制を整備。地域のお客様には従来通りの丁寧な接客を、外国人観光客にも快適な移動体験を提供し、地域密着とグローバル対応の両立を実現しています。



| まちづくり部門 (まちづくり) |

杜の街グレースにおけるにぎわい創出

杜の街グレースでは、地域企業や団体と連携し、岡山や瀬戸内の魅力を広く発信するイベントを継続的に開催しています。マルシェイベント「THE MARKET...」では学生に出店機会を提供し人財育成にも寄与。さらに、地域企業対抗つな引き大会の実施を通じて人々の絆を深め、新たな岡山の魅力を創出するなど、地元の魅力再発見とランドマークとしての認知拡大を図っています。



| T&T部門 (国際両備フェリー) |

港のマルシェ

「港のマルシェ」は新岡山港で定着しつつある人気イベントで、グルメや楽しい催しを通じて幅広い世代が楽しめます。たまルン加盟店や協賛店が多数出店し、来店ポイントや抽選会、ゲームなど来場特典も充実しています。さらに、瀬戸内クルージングの特別運航なども行ない、地域の賑わい創出に貢献しています。



| グループ横断 (グループワッショイサポート部) |

WONDERFUL SETOUCHI の発行

『WONDERFUL SETOUCHI』は「五感で感じる瀬戸内」をテーマに年2回発行されるフリーペーパーです。自然や歴史、工芸・アートなど地域の魅力を紹介し、掲載料無料・撮影データ無償提供で地域活性化に貢献しています。2024年で創刊から10周年を迎えました。今後は多言語対応で国内外へ発信を強化します。



| グループ横断 (グループワッショイサポート部) |

瀬戸内みっけみっけ!

両備グループが発行する観光情報誌『WONDERFUL SETOUCHI』の取材をきっかけに誕生したイベントシリーズ「瀬戸内みっけみっけ!」は、瀬戸内の“いいもの”“おいしいもの”を紹介し、産地直送で手に入る機会を提供しています。両備ストアでの販売や飲食店との連携、屋台出店など、グループ各社の強みを活かした展開で、地域の魅力発信とグループシナジーの創出を目指します。今後は約3カ月に1度の開催を予定しています。



01 ネクストWONDERFUL SETOUCHI

両備グループは、約50社のグループ企業間の連携を深め、シナジー効果の最大化を目指しています。グループ内の異業種がタッグを組んだ新たな価値創造や、ICT部門を中心としたDXによって地域や業界の課題解決を図ります。また、国内外のパートナー企業や自治体との積極的な共創により、想像もつかない素晴らしい未来を実現してまいります。

Mission

3 グループシナジーと生産性向上

8 次代に合わせたビジネスモデルの変革

小豆島

| T&T部門（国際両備フェリー） |

Next

オーキドホテルのリブランディング

世界に誇る観光地・小豆島の玄関口として、オーキドホテルを五感と感性に響く施設へと改修し、世界中のゲストに新たな価値を提供することを目指しています。既存の宿泊の枠にとらわれず、「泊まれるレストラン」「入浴できるレストラン」「食事のできる温泉」など、お客様それぞれの感性で楽しめる複合型宿泊施設を構築。地元の旬の食材を活かした料理を通じて、国内外の来島者に高付加価値を提供し、生産者と共に持続可能な地域産業の創出を図ります。さらに、島民と宿泊客が交流できる場として、ホテル前庭でのマルシェイベントも定期的に開催していきます。

※オーキドホテルは、大規模改修工事のため、2025年6月より休業。
2026年夏リニューアルオープン予定。



| グループ横断（グループワッシュヨイサポート部） |

Next

食と出会いが生む、新しい小豆島の魅力

小豆島ではインバウンド増加に対応し、魅力ある商品づくりを推進。その一例が島産ブドウを牡蠣いかだの下で熟成させた「海底ワイン」。小豆島産の牡蠣との組み合わせた「食の物語」を通じて、より特別な体験を提供。既存資源を活かして新たな価値を創出し、業種間連携の橋渡し役も担っています。

| グループ横断（グループワッシュヨイサポート部） |

小豆島フェア

「小豆島フェア」は、2024年から両備ストアの店頭で開催される地域活性化イベントです。目玉は漁師直送の「朝どれ魚の対面販売」で、鮮魚をその場で加工し調理法も紹介。特別な買い物体験を通じ、小豆島への関心を高め観光促進にもつなげています。



| グループ横断（グループワッシュヨイサポート部） |

小豆島寒霞溪ヒルクライム

2024年度、小豆島で全国規模の自転車競技「ヒルクライムレース」を開催し、約200名が来島。寒霞溪からの絶景が参加者を魅了しました。観光地のファン拡大を目的に、今後は島全体を舞台にした大規模レースへ発展させ、世界的大会を目指しています。

| T&T部門（国際両備フェリー） |

小豆島観光を疑似体験できるPV制作

国際両備フェリー高松航路では、小豆島の観光スポットを体験形態の動画を制作、SNS等での配信を通じて小豆島の魅力周知を図り、来島者の拡大、さらにリピーターの増加を目指しています。

もっと広域に！もっと便利に！

| T&T部門（四国汽船） |

四国汽船グループイン

2025年4月より、四国汽船が両備グループの一員となりました。瀬戸内海で97年の歴史を持つ四国汽船が、公共交通や観光振興に力を注ぐ両備グループと手を携えることで、地域の未来に向けた大きな一歩を踏み出しました。今後は「瀬戸芸クルーズネットワーク」の創設を目指し、瀬戸内海を生活航路として支えるとともに、世界に誇る観光地としての魅力をさらに高めてまいります。瀬戸内の海と人々の暮らしをつなぎ、世界へと開かれた新たな航路を、ともに築いてまいります。



02 社内外の仲間との連携

営業推進連携

| グループ横断 |

営業連携システム「CaTS(キャッツ)」

両備グループ営業委員会はグループ約50社の横断的な営業展開をミッションとしております。2020年5月より、グループシナジーの発揮を目的に「CaTS」(両備グループ営業情報連携システム)の運用を開始しました。グループ各社のお取引先を各社が紹介し合うことで、クロスセールスを徹底的に推進し、その結果の見える化を図ることを目的としています。また、成績上位者を個人表彰する制度もあり、多くの営業情報がグループ各社より発信され、売上、収益にも貢献しています。両備グループのシナジー加速の柱となるツールとして、グループ各社からの活発な情報発信を目指しています。

両備グループ営業情報連携システム

CaTS

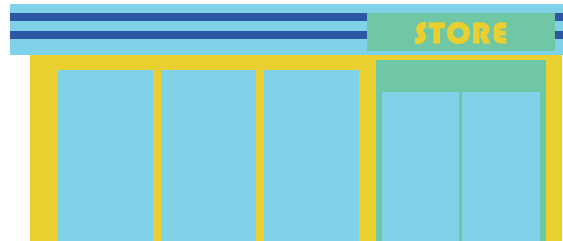
(Co-operation and Trust relationship System)

FOOD

| くらしづくり部門（両備ヘルシーケア・両備ストア） |

入居者の買い物をもっと便利に

両備ヘルシーケアが運営する有料老人ホームでは、両備ストアのネットスーパーを活用し、外出が難しい方でも好きな商品や新鮮な食材を気軽に購入できる環境を整えています。また、入居者様やデイサービス利用者様向けに、両備ストア店舗での買い物イベントも定期的に開催。店舗スタッフによる商品説明やレジ誘導などのサポートが行なわれ、安全・安心に買い物を楽しんでもいただいています。両備グループ内にスーパーマーケットを持つ強みを活かし、両備ヘルシーケアのお客様の生活の質向上に取り組んでいます。



人財育成での連携

| T&T部門 |

組織の垣根を超えた人財育成

T&T部門のバス・鉄軌道ユニット、トランスポート・フェリーユニット、タクシーユニットでは、組織を越えた連携による乗務担当社員の出向調整や人材の有効活用を推進しています。また、両備トランスポートに配属される新入社員には両備バスカンパニー主導の研修を全国で実施し、安全運行と接客力を育成。グループ全体で質の高い交通サービスを目指しています。



| くらしづくり部門（両備ヘルシーケア） |

高齢者サポート研修の実施

高齢化の進行に伴い、高齢者対応の重要性が高まる中、両備ヘルシーケアでは、介護業務で培った知識を活かし、タクシーユニットや両備ストアカンパニーなどに向けて、高齢者への理解と接客に関する研修を座学と実技で実施しています。



| くらしづくり部門（サルボ両備） |

Next

健康に寄り添う食の新提案

サルボ両備では、糖尿病・高血圧・嚥下困難に配慮したメニューを両備ヘルシーケアと連携して開発しています。また、仕事と介護を両立する方向けに、栄養バランスの良いミールキットを自宅や職場で受け取れる仕組みも整え、やさしい食の提供を進めています。

| くらしづくり部門・まちづくり部門（両備ストア・サルボ両備・両備アグリウェルネス） |

Next

グループ内フードサービス事業の連携強化

両備ストアカンパニー、サルボ両備、両備アグリウェルネスでは両備グループ内のフードサービス事業として、業務連携による生産性の向上を図っています。商品開発や販路拡大を共同で進めることで、お客様への提供価値の向上を目指すほか、サービスレベルの高位平準化に向けて、店舗担当者を対象とした接客・接客の合同研修にも取り組んでいます。また地域の農業法人様と協力して、地産地消を軸とした販路拡大にも力を入れています。



02 社内外の仲間との連携

建築・不動産

| まちづくり部門（両備ホームズ） |

Next

両備グループならではの快適でお得な住まいづくり

両備ホームズでは、両備グループのネットワークを活かし、快適・安心・お得な住まいを提供しています。たとえば、グループが取り扱う高性能断熱材や省エネ住宅設備を特別価格で導入できるほか、太陽光発電設備もコストを抑えて提案可能です。また、交通事業との連携により、通勤・通学に便利な分譲地の選定も可能で、暮らしのスタートから日々の生活まで、グループ一体でサポートします。



| まちづくり部門 |

グループ各社の不動産開発支援

不動産関連事業を担うまちづくり部門では、不動産開発に関する豊富な知見と多様な専門性を活かし、両備グループ各社が手がけるプロジェクトを企画段階から支援しています。グループが持つ多彩な業種・専門性を結集し、さまざまなニーズに応える高付加価値な不動産商品を創出。地域の賑わいを生み出すとともに、グループ資産の有効活用を推進しています。



グループ外連携

| T&T部門（両備トランスポート） |

合併会社「N-LOGIパートナーズ」設立

両備トランスポートは物流効率化と生産性向上を目的に、2024年8月にレンタルのニッケンと合併でN-LOGIパートナーズを設立。ICTやAI・IoTを活用し、共同配送や拠点最適化、運行管理、業務の見える化・標準化を推進しています。



| T&T部門（両備タクシーセンター） |

自社アプリ「TAXI.come(タクシードットカム)」の拡大

タクシー配車アプリ「TAXI.come」は、2025年から他社との連携をスタートさせ、今後さらに連携を広げ、対応台数を増やしていく予定です。地域のタクシー会社と協力しながら、必要な時にスムーズにタクシーをご利用いただける環境づくりを進めています。



グループシナジーの追求

| グループ横断（MIRAHOOP） |

Next

モビリティ・観光業界の未来をつなぐ、「MIRAHOOP(ミラフープ)」始動

新会社「MIRAHOOP」は、モビリティ・観光業界が抱える慢性的な人手不足、非効率な業務フロー、複雑なコンプライアンス対応といった課題を解決するため、2025年6月に立ち上がりました。業界の常識は世間の非常識。この前提に立ち、最新のAI技術を活用して業界の商習慣を変革する革新的なシステムを提供します。すべてのステークホルダーをつなぎ、誰もがもっと自由に快適に移動できる社会の実現を目指しています。今後は、より多くの事業者への導入を進め、さらなるサービスの拡充と利便性の向上を図りながら、業界に新たなスタンダードを築いてまいります。



| T&T部門・ICT部門（両備トランスポート・両備システムズ） |

両備トランスポートと両備システムズでの共創ビジネス

両備トランスポートと両備システムズは、経営幹部を交えた定期的な戦略ミーティングを実施し、互いの強みを活かした共創ビジネスの可能性を探っています。両備トランスポートの物流ノウハウと両備システムズのIT技術の融合により、物流業界の課題解決につながる新たな物流プラットフォームの検討を進めています。また営業面でも、両社が連携して顧客提案を行なうことで、より付加価値の高い提案が可能となる体制づくりを目指しています。グループ内の共創を通じて、社会やお客様にとって、よりサステナブルで魅力的な物流サービスの提供を目指しています。



| グループ横断（MIRAHOOP） |

Next

高速バス乗り継ぎ予約サービス「コネモビ」

MIRAHOOPは、全国のバス会社が個別に運行する路線をつなぎ、シームレスに利用できるサービス「コネモビConnecting Mobility Services」を展開しています。スマートフォンによる一括予約・決済により、乗車券の表示までワンストップで完結。スムーズな乗り継ぎが可能となり、まるで一本の長距離路線のように利用できる新しいバスサービスです。この取り組みにより、航空機や自家用車に比べて環境負荷の少ないバスの利用を促進し、脱炭素社会の実現にも貢献します。また、バス会社にとっては、航空機や新幹線ではアクセスしづらい観光地への移動手段としてバスの強みを活かせるほか、地域事業者との連携によって新たな観光需要の創出も期待されます。さらに、運転者の距離制限や労働時間の課題解決にも資する取り組みです。これまで実証実験を重ねて知見を蓄積してきましたが、2025年度中にシステムをリニューアルし、2026年度春には全国のお客様にご利用いただける乗り継ぎサービスとしてグランドオープンチを予定しています。



| T&T部門（バス・鉄軌道各社） |

手作業・転記作業撲滅プロジェクト

バス・鉄軌道ユニットでは、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を活用した定型業務の自動化によって、業務効率化とサービス品質向上を目指す「手作業・転記作業撲滅プロジェクト」を推進。高速バスの業務では精算業務の自動化により、作業時間短縮と負担軽減を実現しています。



| グループ横断（MIRAHOOP） |

Next

貸切バス受発注システム「mobitas(モビタス)」

MIRAHOOPは、貸切バスの受発注業務をデジタル化する新サービス「mobitas」の開発を、2025年9月に発表しました。これまで、貸切バスの受発注は旅行会社とバス事業者間で電話やFAX、メールによるやり取りが主流で、生産性の低さや業務の煩雑さが長年の課題となっていました。こうした業界課題の根本的な解決を目指し、全国のバス事業者と旅行会社をつなぐ新たなデジタルプラットフォームとして「mobitas」を開発。本サービスは、全国のバス事業者や旅行会社など約140社が参画する「貸切バス業務改革連絡会」をはじめとする、業界横断の共創体制のもとで構築されました。現場の声を徹底的に反映し、アナログツールに依存していた従来の受発注業務を、ワンストップでデジタル完結できる仕組みへと進化。これにより、バス事業者・旅行会社双方の飛躍的な生産性向上、業務負荷の大幅削減、ペーパーレス化による環境負荷の低減等を目指します。これらの改善を通じてバス業界・観光業界全体の働き方改革を進め業界の魅力度向上にも寄与してまいります。



| T&T部門（フェリー事業各社） |

ホテル・フェリーの業務効率化

ホテルおよびフェリー事業において、顧客サービスの向上と業務効率化を目的に、ホテルシステムや航路予約管理システムの構築・更新を進めています。小豆島・岡山・高松を結ぶ航路では、チケット販売や売上管理の高度なシステム化により、お客様の利便性向上と運営の効率化を図ります。また、ホテルでは顧客管理機能の強化や生産性向上、コスト削減を目指し、インフォメーションのデジタル化や自動精算機の導入を検討。これにより、スタッフの業務負担を軽減し、より質の高い接客サービスの提供を目指しています。



| くらしづくり部門（三菱ふそう中国地区販売） |

三菱ふそう中国地区販売グループイン

2025年2月より、グループの一員となった三菱ふそう中国地区販売は、広島・山口・鳥取・島根の4県を対象に、三菱ふそう製のトラック・バスおよび産業用エンジンの販売、整備、部品販売を展開する地域密着型的大型車ディーラーです。両備グループが長年培ってきた公共交通・整備事業との連携により、販売・サービス体制の強化と経営効率の向上を図るほか、ICTや物流事業との融合を通じて、地域の移動と物流の未来を支える新たな価値創造に挑戦してまいります。

| ICT部門（両備システムズ） |

メディカルAIの事業化

両備システムズは岡山大学と連携し、AIを活用した医療システムの開発を推進。2024年3月には早期胃がんの深達度診断支援で国内初の承認を取得し、7月には胆道がんにも対応。AI診断支援技術の事業化を進め、医療の未来づくりに貢献しています。



| ICT部門（両備システムズ） |

「GROWTH」活動でグループ全体のDX推進

両備システムズは、グループ各社のDXや業務効率化の課題解決に取り組む中で、グループ全体としてまだ着手できていない領域があると考え、持続的な成長を目指して「GROWTH」活動を立ち上げました。社内カンパニー横断の「Growth Team」を設置し、グループへのIT支援の窓口を一本化。まずは各社へのヒアリングを実施し、課題やITニーズを把握したうえで個社カルテを作成しました。このカルテをもとに、IT予算策定を支援し、グループ全体のDX推進を継続しています。グループの多様な業務に寄り添いながら、ITの力で未来の成長基盤を築いていきます。



02 社内外の仲間との連携

新たな共創パートナーを

| ICT部門（両備システムズ） |

協業・M&Aの推進

両備システムズは「ともに挑む、ともに創る。」を掲げ、スタートアップとの連携やM&Aを視野に入れたオープンイノベーションを推進。両備グループの広い事業領域や実証フィールド、開発力、CVCによる出資などの強みを活かし、外部パートナーとの継続的な協業体制を構築しています。社内体制の強化も進めながら、ICT部門での2030年売上500億円達成を目指しています。

| ICT部門（両備システムズ） |

研究開発投資の推進

最新の技術が次々と登場する中で、両備システムズでは高いスキルを持つ技術者を育て、組織全体で研究開発を進める体制づくりに取り組んでいます。2025年からは費用管理のガイドラインを導入し、計画的な投資と成果の可視化を推進。選抜メンバーは外部連携プログラムにも参加し、イノベーション創出力の向上を図っています。

| グループ横断 |

WONDERFUL SOLUTION PROJECT

両備グループは創立115年を機に、地域や日本の未来をより良くするため「WONDERFUL SOLUTION PROJECT」を始動（募集＋選考期間：2024年9月～2025年7月）。若者の成長や安心して老いを迎えられる社会の実現を目指し、217件の応募が集まりました。今後は採択団体と連携し、地域のサスティナビリティに貢献していきます。



03 次代に向けたビジネス

with Next Generation

新たな事業領域への挑戦

| ICT部門（両備システムズ） |

デジタルマーケットプレイスへの対応

デジタルマーケットプレイス（DMP）は、行政がウェブサイト上でサービスを簡単に比較・検討し、迅速に調達できる新しいIT調達手法です。2024年10月に正式リリースされ、2025年1月から行政機関による利用が開始されています。両備システムズは現在「R-STAGE家庭児童相談」「こどもの杜」の2つのサービスを掲載しており、今後も掲載拡充を進める予定です。



| ICT部門（両備システムズ） |

クラウドビジネスの強化

両備システムズは、SalesforceやAWSなど信頼性の高いクラウドを活用し、企業や自治体向けに導入から運用まで一貫したサポートを提供しています。特に自治体には、安全性の高い「R-Cloudサービス」を通じて住民サービスのデジタル化を推進しています。



| グループ横断（Rヨット） |

ヨットスタイルという新たな客船サービス

Rヨットでは、日本初の“ヨットスタイル客船”を2027年に就航を予定しています。乗客定員は約100～150名で、まるでメガヨットのオーナーになったかのような贅沢な空間と、きめ細かなパーソナルサービスをご提供します。航路は、瀬戸内海や沖縄・南西諸島など、大型船では入港できない美しい島々を巡り、船尾には日本初となるマリナーを備え、マリナクティビティや小型ボートでの離島上陸も楽しめます。これまでにない新しいクルーズ体験をお届けいたします。

| T&T部門（津エアポートライン） |

伊勢湾観光DMO化へ向けた取り組み

訪日外国人増加に対応し、中部国際空港と津を結ぶ海上アクセスの利便性向上が進められており、津エアポートラインでは観光客向けにWeb予約やQRコード乗船券、割引チケットなどを導入。これにより、乗船手続きが簡単になり、空港から三重方面への移動がより便利になっています。今後は、伊勢湾エリア全体の観光活性化に向けて、DMO※設立にも協力していく予定です。

※ DMO:観光地域づくり法人



| くらしづくり部門（両備ヘルシーケア） |

介護事業から生まれた日本語教室

両備ヘルシーケアは、介護事業で培った教育力を活かし、海外人財への日本語や介護技術の教育に注力。現在、社員3名が日本語教師の資格を取得し、大学や専門学校、他の介護施設でも授業を行なっています。2025年度からは技能実習生向け入国後講習を開始する予定です。その先には日本語学校の設立も視野に入れています。

